『ハンドボール』

58年11月号（第224号）目次

【表紙写真】第38回あかぎ国体成年男子優勝の広島・湧永製薬チーム

第38回あかぎ国体ハンドボール競技

颯爽と地元群馬が《総合》優勝

抜けるような青空の下、爽やかな風が吹き抜ける〃あかぎ国体〃最終日。成年男子の愛知県（大同特殊鋼）が広島県（湧永製薬）に敗れたために、同時に行なわれた成年男子群馬選抜が三重県（本田技研鈴鹿）に敗れ4位になったものの、総合で堂々優勝を成し遂げた。

群馬県は、少年男子の群馬選抜が決勝に進出し、福岡県の久留米工大附属高に敗れたが、この準優勝は立派。少年女子の群馬選抜も破竹の勢いで決勝に進出し、広島選抜に1点差で惜敗した。

さらに群馬県の総合優勝に貢献したのが、この国体の成年女子の部に颯爽とデビューした光電クラブの活躍。3位決定戦で大和銀行に惜しくも敗れたが、その爽やかなプレイが印象的だった。

あかぎ国体のスローガンは〃風に向かって走ろう〃。会場は妙義山のふところに抱かれた富岡市。官営富岡製糸工場で有名なように、もともと製糸業の栄えたところだ。

上州のカラッ風、カカァ天下、などの語感とは反対に、人情は至って温厚なところ。各チームの宿舎がある地区の婦人会や子供会がこぞって会場へ応援にかけつける。

その子供達が手拍子そろえてかわいい声援を送る。他県の選手にとって、これほど力強いものはなかったに違いない。選手達の心にいつまでも残るよきお土産である。

☆　☆　☆　☆　☆

＝日本ビクター・大和銀行の活躍＝

日本ビクター茨城県は主砲武藤夕起子選手を、大和銀行（大阪府）は主力の若水真由美、秋成圭子両選手を、同時期にフランスで行なわれた世界ジュニア選手権大会に日本代表として参加させたが、そのハンディキャップをみごとにはねのけて2位、3位を占めたのが特筆される。

とくに日本ビクターは、第2回戦の対ブラザー工業（愛知県）戦で後半残り2分で3点リードされていた。この追いつめられた状況で志村、中根が連続ゲット。そしてタイムアップ寸前、キャプテンの村上が執念の一投で延長戦として対大和戦へと駒を進めた。

そして、奇しくも日本ビクター、大和銀行が対決することになった準決勝戦も実に見ごたえのある好試合だった。

第34回国民体育大会詳報

久留工大附高が三冠王達成

＜少年男子＞

湧永製薬＜成年男子＞ 立石電機＜成年女子＞は強豪ぶりを発揮して制覇

少年女子で大激戦 広島選抜1点差で地元群馬選抜を破る！





第34回国民体育大会は、10月16日から19日まで群馬県富岡市で、成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の四部門で熱戦を展開した。

結果は成年男子が湧永製薬、成年女子立石電機が強豪ぶりを発揮して優勝、少年の部では、男子が久留米工大附高が選抜・総体に続く制覇で3冠王を達成、女子は広島選抜が地元群馬選抜を破り優勝を果たした。

成年男子

▽1回戦

日川ク（山梨）31（15－14、16－7）21 京都ク（京都）

	【日川】	得
GK	武藤治	0
GK	菊島	0
FP	内田一	3
FP	武井	9
FP	武藤寛	4
FP	内田良	4
FP	関口	4
FP	古屋	6
FP	長谷川	0
FP	代永	0
FP	佐藤	1
FP	武藤久	0
PT	(2)	31

	【京都】	得
GK	咲本	0
GK	小嶋	0
FP	伊藤	0
FP	林	0
FP	太田	0
FP	堀田	2
FP	松井	7
FP	藤本	3
FP	舟橋	4
FP	丸山	0
FP	御牧	4
FP	酒井	1
PT	(1)	21

（審・大橋、久保田）

○…立ち上がり互角であったが10分過ぎより山梨は速いパスワークと鋭いカットインからシュート、あるいはポストから得点し前半で大差をつけた。特に山梨の3番、6番のプレーが目についた。後半に入っても流れは変らず、時折見せる速攻も山梨GKの好守にはばまれ、主導権を握るまでには至らなかった。（春原）

全宮崎（宮崎）50（23－8、27－12）20 徳島東ク（徳島）

	【徳島】	得
GK	高橋	0
GK	新居	0
FP	繊岡	0
FP	布谷堆	2
FP	林	0
FP	大山	5
FP	布谷	0
FP	西	1
FP	藤岡	4
FP	浜田	2
FP	森口	0
FP	阿部	6
PT	(1)	20

	【宮崎】	得
GK	長友	0
GK	松村	0
FP	巣立	7
FP	田村	8
FP	石原口	7
FP	長野	7
FP	富永	6
FP	木切倉	6
FP	曽原	0
FP	佐藤	1
FP	船木	8
FP	江藤	0
PT	(2)	50

（審・青木、春原）

○…パワー、スピードともに優る宮崎が始めより大きく徳島をリードし楽な試合をした。一方的な試合になったが徳島も最後までよく頑張った。（久保田）

福島教員（福井）32（17－16、15－5）21 サンケミカル（岐阜）

得	【サン】		【福井】	得
0	堀田	GK	川村	0
0	小塚	GK	長谷川	0
3	堀	FP	庄司	1
2	倉田	（審・菊地 羽田）	小林	8
2	粟田		谷口	6
3	鶴谷		金子	1
5	倉内		田中	0
6	張山		上橋	0
0	安藤		竹野	3
0	大橋		吉田	3
0	長谷川		上山	1
0	日下		土本	9
21	(4)	PT	(2)	32

○…立ち上がり両チームとも互角に展開していたが、前半10分過ぎ岐阜がペナルティースローをはずしたのを境に福井に流れが変り足をつかった攻撃に切り変え確実に得点を重ねた。福井11番の走りが印象的であった。

鳥取選抜（鳥取）32（17 15 — 12 9）21 龍登園ク（佐賀）

得	【龍登】		【鳥取】	得
0	野口	GK	足川	0
0	中原	GK	佐々木	0
6	羽立	FP	浜口	2
0	井手	（審・栗城 内田）	森脇	9
3	平尾		小沢	7
0	野中		西村	3
1	内田		荒木	0
5	笠原		田中	5
3	志岐		木田	2
3	松本		松尾	2
0	松田		仁志	1
0	馬場		松井	1
21	(3)	PT	(3)	32

○…走力に勝る鳥取は早い動きからのパスワークで佐賀ディフェンスを崩しそつなく得点、一方佐賀は2番にボールを集めてチャンスをねらったが鳥取の守りにつぶされる。後半は佐賀の単発シュートを速攻に結びつけ一方的なゲームになった。（青木）

福島教員（福島）30（14 16 — 15 14）29 長野選抜（長野）

得	【福島】		【長野】	得
0	宮田	GK	小島	0
0	熊谷	GK	片桐	0
10	佐藤	FP	竹内	1
5	後藤	（審・結城 田村）	矢島	13
2	上野		塩川	3
0	根本		岩下	5
0	藍原		行田	1
6	遠藤		黒岩	0
4	小沼		渡辺	6
0	菅野		塩川	0
0	斉藤		小山	0
3	阿部		若林	0
30	(6)	PT	(6)	29

○…スローテンポの展開で試合は進められるうち、福島は2番、4番、7番のミドルで得点すれば長野は3番のミドル、フリースローで得点し、一進一退のゲームになった。前半終了1分前まで4点差まで引き離した福島も長野のベテラン5番と8番の速攻で2点差に追い上げられた。後半に入り、リードする福島、追う長野、一時は1点差までつめよった長野であったが、ゲームの行方はタイムアップまでわからず場内をわかせた。結局1点差で福島が辛勝した。（春原）

あかぎク（群馬）48（23 25 — 4 4）8 越路ク（新潟）

○…スピードに勝る群馬は、多彩な攻撃で着実に得点し、一方新潟は群馬のかたいディフェンスで14分間無得点で前半はワンサイドゲームで終了した。後半に入り、群馬ペースで前半同様一方的な試合に終始する。（浅川）

得	【越路】		【あかぎ】	得
0	水内	GK	讓原	0
0	吉川	GK	野口	0
1	春日	FP	斉藤	4
0	寺崎	（審・畠山 増田）	越石	2
2	広瀬		永井	3
2	大橋		今井	5
2	若月		高梨	7
0	安藤		岡田	4
0	藤崎		栗田	5
1	黒川		石井	5
0	成田		寺山	5
0	大矢		三浦	8
8	(1)	PT	(3)	48

全青森（青森）33（17 16 — 11 10）21 ロ加ク（長崎）

得	【ロ加】		【青森】	得
0	末続	GK	藤川	0
0	荒木潤	GK	鈴木	0
0	大村	FP	工藤	5
4	福田	（審・浅川 町田）	伊賀	1
0	松永		佐々木	8
1	酒井伸		藤本	3
1	酒井基		山口	0
3	荒木徹		町屋	0
4	大下		三浦	1
1	天本		柳谷	6
7	村里		小笠原	7
0	岩原		田名辺	2
21	(1)	PT	(4)	33

○…青森が立ち上がり先取点を取って快調にスタートを切った。両チームともにディフェンスが甘く、パスミスが多く、得点内容は速攻と単発なミドルからのシュートが多かった。しかし、青森は主導権をにぎり、速攻を確実に加点して前半は6点差で終った。後半も青森は、長崎のミスを生かし、また要所要所を9番、10番が得点し、追いすがる長崎をジリジリと点差を開き逃げ切った。（畠山）

兵庫選抜（兵庫）41（23 18 — 11 3）14 麻生ク（茨城）

得	【兵庫】		【麻生】	得
0	近藤	GK	平山	0
		GK	栗原	0
1	松岡	FP	金沢	1
3	岸本	（審・上久保 北井）	前島	0
1	工藤		阿部	2
9	大西		大月政	2
6	荒井		小沼	3
1	岡部		久保田	1
6	山崎		大月健	0
4	松森		清水	0
5	大崎		生井沢	3
5	竹内		小牧	2
41	(2)	PT	(1)	14

○…前半開始直後に、麻生は荒いディフェンスのためにたて続けに3名が警告をとられ、4名の退場者と続き、その間に兵庫選抜はシュートチャンスを確実に得点に結びつけ、ディフェンスでも確実な動きでのシュート防御からの連続速攻と全員がよく走り、得点の差をひろげ、後半も全員がよく走り余裕のあるパスワークプレーで圧勝する。麻生は単調な攻め急ぎと荒い防御と脚力の不足が敗因となる。（増田）

全宮城（宮城）33（19 14 — 17 13）30 鹿児島ク（鹿児島）

得	【宮城】		【鹿児島】	得
0	熊谷	GK	西	0
0	高橋	GK	海江	0
1	若生	FP	宮田	0
0	菊地	（審・小川 稲生）	切通	0
10	千葉		宮里	0
5	大友		安田三	14
0	桜井		末吉	1
7	弓場		亀沢	1
0	蛇石		安田茂	2
1	小野		馬場口	3
9	佐藤		中原	2
0	藤原		平山	7
33	(2)	PT	(1)	30

○…前半立ち上がり鹿児島が相手ミスを速攻に結びつけたが、宮城のGKがほとんどのシュートを止めたため鹿児島はシュートミス、宮城はパスミス、その他のミスで一進一退のゲーム展開であった。後半も前半と同じ両チームともミスが目立ったが、開始10分ぐらいで宮城の4番のミドルシュートでやや優位に立ち、鹿児島はその点数をどうしてもつめる事が出来なかった。宮城のGKの好守が光ったゲームであった。（町田）

熊本本田技研（熊本）25（14 11 — 12 8）20 江津ク（島根）

得	【江津】		【本田】	得
0	川木	GK	岩本	0
0	奥川	GK	森	0
6	斉藤	FP	田上	6
0	吉永	（審・後藤 島田）	斉所	5
2	浴元		入江	0
0	佐藤		松永	4
0	石倉		岩永	0
0	山本		岡崎	1
2	野津		佐伯	5
4	浜角		中村	4
3	浅原		鯖江	0
3	奥谷		益田	0
20	(1)	PT	(2)	25

○…熊本は立ち上がりペースがつかめず島根に先行されたが、10分過にペースをつかみチャンスを確実にものにして加点し、一方、島根も必死にくい下がり2点差で前半終了。後半に入り両チームとも1点を争う好ゲームになったが、25分位から熊本が連続得点し島根をつき離した。（浅川）

全石川（石川）28（13 15 — 16 9）25 山形ク（山形）

○…滑り出し石川は速攻とサイ

ドシュートをうまくミックスしてリードを奪うも、山形もジリジリと追い上げ15分過ぎ同点とする。その後は一進一退をくり返すも、ペナルティーシュートのはねかえりボールを拾ってのシュートが3本も決まる幸運に恵まれた石川がリードを保って前半を終了。後半山形は動きが鈍くなりボール廻しがうまくあわないで苦労する。この間石川は4番の中距離ステップシュート、ワンフェイントシュート、6番のポストシュートやサイドシュートで着々と加点し引離しに成功、そのまま押し切った。山形ディフェンス陣に精彩がなかったなかでGK12番のディフェンスは見るべきものがあった。両チームともディフェンスを研究する要がある。（矢澤）

得	【石川】		【山形】	得
0	熊谷	GK	鈴木	0
0	藤井	GK	佐藤	0
4	橋本	FP	吉田	2
4	古橋	FP	小國	3
6	覚間	FP	秋葉	0
6	上山	FP	鎌田	3
2	酒井	FP	庄司	0
0	黒田	FP	鈴木	0
4	西田	FP	村岡	8
0	中田	FP	滝波	5
2	山田	FP	佐藤	4
0	八日市屋	FP		
28	(2)	PT	(1)	25

（審・藤田、市瀬）

大電会（大分）26（9―8 12―11）19 函館有斗ク（北海道）

○…前半両チームともパス、キャッチミスが目立ち平凡なスタート。両GKの好守もあり得点することができない。函館は9番を中心に速攻、一方、大分は速攻を中心に攻めるが、両チームとも得点に決め手を欠き、走り勝った大分が前半1点差でリード。後半に入っても両チームにミスが目立つ。大分は速攻を中心に荒い攻めながら着実に得点を重ねた。函館は5分、続けて2名の退場を出してからディフェンスが雑になった。大分の走り勝ちと言えるが、使いなれない松ヤニのせいか両チームともにパスミス、キャッチミスが目立った試合だった。（遠藤）

得	【函館】		【大電会】	得
0	和泉	GK	伊藤	0
0	奥村	GK	為末	0
0	兼田	FP	河村	4
0	宮原	FP	渡辺	4
0	堤	FP	清水	0
5	岡田	FP	竹下	0
0	高田	FP	二宮	6
4	佐藤	FP	工藤	2
2	鈴木	FP	足立	4
5	木村	FP	園田	0
1	吉田	FP	安部	0
2	高桑	FP	島村	6
19	(0)	PT	(1)	26

（審・山下、浜野）

花巻ク（岩手）34（16―8 18―12）20 高知ク（高知）

得	【花巻】		【高知】	得
0	鎌田	GK	久家	0
0	藤原	GK	成岡	0
2	谷川	FP	野村	3
7	阿部	FP	片岡	2
3	田村	FP	沢田	1
7	谷藤	FP	大原	0
0	平野	FP	酒井	5
1	吉田	FP	武田	0
0	大沢	FP	岡本	5
2	及川	FP	高倉	2
3	山口	FP	中川	0
9	中島	FP	西山	2
34	(3)	PT	(4)	20

（審・矢澤、横瀬）

○…開始早々、岩手のGKの超美技が、その後高知のシュートを外へ外へとはずさせ、その間に岩手は高知のディフェンスの甘さをつき全員よく走り得点した。中盤になりやっと高知もコンビが合いポストプレーで追い上げたが、25分過ぎから足が止り単発シュートをGKにはばまれ速攻を決められ前半を終了。後半立ち上がり、両チームともミスが多くシュートも雑であったがわずかに動きのよい岩手が得点を重ねた。高知はいまひとつファイトがなく、ベテランと若手とのコンビが悪く単発プレーが多く速攻をされ大差がついた。（市瀬）

大阪イーグルス（大阪）27（14―9 13―12）21 北九州ク（福岡）

得	【北九州】		【大阪】	得
0	塚本	GK	信貴	0
0	岩崎	GK	本田	0
1	大久保	FP	千野	0
2	角本	FP	源野	4
0	中村	FP	足羽	6
7	山崎	FP	大西	3
2	森本	FP	飯田	0
6	新谷	FP	成瀬	2
0	天野	FP	勝本	2
3	野口	FP	三谷	5
0	角野	FP	辻本	11
21	(2)	PT	(2)	27

（審・遠藤、加藤）

○…立ち上がり大阪、福岡ともにアップ不足か4分間0―0の試合運びとなった。その後、試合なれした大阪が多彩なプレーで着々と点を重ねていった。一方、福岡も好プレーが時々みられたが今一つ力不足長身10番のシュートが光っていた。前半14―9で大阪がリードで終了。後半福岡が健闘したが余り10分で10番の失格が出てしまった。ムードは前半と同じ終始大阪のリードで終了。（浜野）

千葉教員（千葉）27（11―13 16―10）23 全富山（富山）

得	【富山】		【千葉】	得
0	瀬川	GK	釜谷	0
0	須波	GK	塩原	0
4	中浦	FP	浅原	3
0	小嶋	FP	内記	0
0	古井	FP	八重盛	0
2	山崎	FP	山上	0
3	中山	FP	頓部	2
1	栗山	FP	仲川	6
4	為永	FP	松井	9
0	沢井	FP	植村	3
2	糸	FP	大鐘	3
7	越前	FP	飯名	1
23	(5)	PT	(2)	27

（審・藤田、市瀬）

○…両チームともかたさがとれずシュートミスが目立つ。開始後10分まで富山はサイド攻撃を生かしたプレーで4対2とリードする。千葉も前半なかばより走りが出て20分には8対8と同点とする。更に千葉は速攻とミドルシュートで2点連取し主導権をにぎったかにみえたが、シュートミスがありそれを富山に速攻され13対11とリードを許し前半終了。後半は両チームともよく走り、もてる力を出し一進一退の好ゲームを展開したが20分過ぎより富山に疲れがみえて千葉に走られ得点を許し涙をのむ。（横瀬）

▽**2回戦**

湧永製菓（広島）35（19―6 16―7）13 日川ク



成年男子決勝・湧永対大同戦

得	【湧永】		【日川】	得
0	大城	GK	武藤治	0
0	井藤	GK	菊島	0
9	池ノ上	FP	内田一	0
5	生駒	FP	武井	2
5	穂積	FP	武藤寛	3
1	藤本	FP	内田良	5
1	志賀	FP	関口	1
4	中川	FP	古屋	2
1	横原	FP	長谷川	0
4	松本	FP	代永	0
5	山本	FP	佐藤	0
0	原田	FP	武藤久	0

（審・畠山、増田）

35 (5) PT (0) 13

○…前半山梨はよく走り果敢に攻めたが、広島の堅いディフェンスをなかなか切り崩すことが出来ず10分まで1対8、15分には3対11とはなされたが点差のわりには内容的に速攻の応襲で素晴らしいものであった。

特に山梨GKの好守が試合をひきしめていた。後半両チームともやや単調なプレーも時々見られたが、オールジャパンでしめる広島に対して、クラブチームの山梨が闘志の上で少しもおくれをとる事なくよく戦った事は評価される。（栗城）

沖縄選抜（沖縄） 39（20—9、19—11）20 天城高校OB（岡山）

得	【沖縄】		【天城】	得
0	新垣	GK	小合	0
0	東迎	GK	村木	0
7	宮城	FP	前田	0
5	高良	FP	藤原	4
3	慶田城	FP	守安	0
4	城間	FP	沖藤	3
6	知念	FP	浅沼	5
2	前田	FP	田淵	1
2	荷川取	FP	貝吹	3
2	新里	FP	鈴山	1
7	喜舎場	FP	森谷	2
1	黒島	FP	杉野	1

（審・栗城、内田）

39 (6) PT (0) 20

○…沖縄は開始直後にペナルティーを得点し10番を中心に速攻、ポストプレー、サイドなど多彩な攻撃で加点し前半で主導権を握った。岡山は元気なく、沖縄のスピードについて行けず前半8点差で終った。後半も沖縄は攻撃をゆるめることなく速攻を主体に走りまくって得点差をつけた。一方、岡山は沖縄のディフェンスの壁が厚く突破できず、力の差がそのままの得点差になった。（畠山）

湯沢ク（秋田） 31（16—12、15—14）26 全宮崎

得	【湯沢】		【宮崎】	得
0	吉田	GK	長友	0
		GK	松村	0
1	佐藤文	FP	巣立	0
4	佐々木	FP	田村	5
1	古田	FP	石原口	5
5	菅野	FP	長野	3
1	近野	FP	富永	4
6	佐々木	FP	木切倉	5
0	藤原	FP	曽原	0
7	半田	FP	佐藤	0
5	斉藤	FP	船木	4
1	佐藤久	FP	江藤	0

（審・畠山、増田）

31 (3) PT (2) 26

○…両チームともゆっくりした攻防を展開し、秋田はポスト、宮崎はロング、ポストと点の取り合いとなり15対14と秋田1点リードで前半を終了。後半に入り、両チームとも動きがよくなり、秋田は5番、9番ロングシュート、宮崎は3番、4番、10番のロングシュート、速攻と善戦したがシュート力に優る秋田が31対26で勝利を握った。（内田）

三陽商会（東京） 35（19—13、16—12）25 福井教員

得	【三陽】		【福井】	得
0	大山	GK	川村	0
0	内野	GK	長谷川	0
4	関	FP	庄司	0
3	金子	FP	小林	9
3	田口	FP	谷口	4
0	坪子	FP	金子	0
4	砂川	FP	田中	1
13	山口	FP	土橋	0
1	石原	FP	竹野	1
2	望月	FP	吉田	0
		FP	上山	3
5	亀井	FP	上本	7

（審・栗城、内田）

35 (3) PT (1) 25

○…両チームともに早いパスワークと、お互いの個人技の持ち身を生かし前半開始からシーソーゲームとなる。しかし、速攻のチャンスを生かした東京が前半リードして終了する。後半に入り、中盤まで福井はディフェンスでよく頑張り、オフェンスでも積極的にシュート得点をしよく健闘したが、着実に余裕をもって展開する東京は一日の長があり、終盤にはディフェンスを固めた東京が差をひろげて終る。福井は善戦した。（増田）

栃の葉ク（栃木） 34（17—7、17—11）18 鳥取選抜

得	【鳥取】		【栃の葉】	得
0	足川	GK	高橋	0
0	佐々木	GK	岩下	0
1	浜口	FP	川田	5
3	森脇	FP	河先	2
9	小沢	FP	中山	5
2	西村	FP	山木	3
0	荒木	FP	小西	1
2	田中	FP	大出	2
0	木田	FP	滝口	9
0	松尾	FP	鈴木	2
0	仁志	FP	名嘉	4
1	松井	FP	岸	1

（審・藤田、市瀬）

18 (3) PT (7) 34

○…立ち上がり、ミスが目立った鳥取だが、速攻、サイド攻撃で20分まで8対8の互角の展開、一方栃木は8番を中心に加点するもののポストのキャッチミス、速攻のつなぎも今一つでなかなか差をつけられなかったが、前半残り5分で鳥取のディフェンスの甘さをつき17対11で前半終了。後半鳥取はディフェンスが荒く、退場者が続出し栃木の一方的なペースとなった。鳥取は、4番が頑張るものの前半程元気が見られず味気のない試合に終った。（結城）

福島教員 29（16—9、13—14）23 清商ク（静岡）

○…立ち上がり静岡はディフェンスが甘く福島の4番、2番、8番にミドル、ポストシュートを打たれ8分過ぎには4対1とリードされた。しかし10分過ぎより疲れのでた福島に対し5番、7番を中心にロングシュート、速攻がきまりはじめ8対8の互角となった。

得	【清商】		【福島】	得
0	望月雄	GK	宮田	0
0	杉山	GK	熊谷	0
0	漆畑	FP	佐藤	4
0	浜田	FP	後藤	6
4	茂津目	FP	上野	10
6	梅林	FP	根本	0
5	名倉	FP	藍原	0
7	稲葉	FP	遠藤	0
1	平井	FP	小沼	4
0	石月	FP	菅野	0
0	望月紀	FP	斉藤	0
0	寺本	FP	阿部	5
		（審・結城・田村）		
9	(3)	PT	(4)	29

その後も静岡は7番を中心に速攻、ポスト等により加点。福島は4番のミドルを中心に加点し前半を14対13の静岡ややリードのうちに終了。後半両チームとも疲れがでたのかディフェンスが甘くなりシュート打ち合いとなり、シュートミスの少ない静岡が福島を3点リードし静岡ペースで試合が展開された。しかし、10分過ぎより福島は静岡の7番をマンツーマンでマークし、静岡のボールまわしをおさえた。さらに静岡に退場者が続出したのをきっかけにカットイン等により着実に加点し、16分すぎには21対20とリードした。その後も速攻等で加点し結局29対23で静岡をつき放した。（藤田）

あかぎク 34（16－8 18－8）16 讃岐ク（香川）

○…地元の声援をうけ立ち上がり堅さがみられたあかぎだが、前半10分過ぎより脚力にものをいかせ速攻により得点、その後もペースをつかみ18－8で前半を終了。後半あかぎディフェンスに荒らさが目立ったが総合力にまさり、着実に得点し快勝した。（田村）

得	【あかぎ】		【讃岐】	得
0	譲原	GK	石脇	0
0	野口	GK	平野	0
2	斉藤	FP	原田	2
1	越石	FP	竹木	1
4	永井	FP	松原	4
3	今井	FP	多田	3
8	高梨	FP	綾	8
8	岡田	FP	西山	8
1	粟田	FP	前田	1
3	石井	FP	久保	3
0	寺山	FP	白井	0
4	三浦	FP	杉山	4
		（審・藤田・市瀬）		
34	(6)	PT	(6)	34

全滋賀（滋賀） 30（19－12 11－11）23 全青森

得	【滋賀】		【青森】	得
0	石田	GK	藤田	0
0	太田	GK	鈴木	0
2	位田	FP	工藤	5
4	伊藤	FP	伊賀	0
7	能波	FP	佐々木	0
7	井上	FP	藤本	7
4	武田	FP	山口	0
0	大野	FP	町屋	1
0	橋山	FP	三浦	0
5	村崎	FP	柳谷	4
1	森	FP	小笠原	0
0	林田	FP	田名辺	6
		（審・結城・田村）		
30	(1)	PT	(1)	23

○…青森の速攻と滋賀のロングの試合展開となり、青森GKのカンの良いキーピングがさえ、中盤よりミスが多い滋賀に対し、青森がよく足を使い早いパスワークからノーマークをよく決めて前半を終了した。後半も両チームとも、気合のこもったプレーが続き好ゲームとなるが、15分過ぎに青森のディフェンスの足が止り、ポストへ落とされ得点を許し苦しい展開となったが、最後まで試合をあきらめないガッツには拍手を送りたい。（市瀬）

鈴鹿木田技研（三重） 33（15－8 18－10）18 兵庫選抜

得	【兵庫】		【鈴鹿】	得
		GK	大畑	0
0	近藤	GK	中尾	0
0	松岡	FP	佐々木	5
0	岸本	FP	三本松	0
4	工藤	FP	喜井	0
2	大西	FP	豊岡	1
0	荒井	FP	尾上	4
0	岡辺	FP	玉井	2
6	山崎	FP	栗屋	6
0	松森	FP	立木	3
2	大崎	FP	田野	9
4	竹内	FP	坂本	3
		（審・青木・春原）		
18	(3)	PT	(0)	33

○…立ち上がり、6番尾上のサイドシュートからはじまり好調な出だしであった。それに対して兵庫は、速い転回で勝負に出ておりスピーディーな試合になったが、三重がかたいディフェンスで速攻につなぎ、ズラシからまたクロスからと確実に得点を重ね前半を18対10で三重リードでおわる。後半兵庫は4番を中心によく攻めたが三重のGK大畑の好キープと速攻で一方的な試合になった。（稲生）

愛媛選抜（愛媛） 26（14－8 12－8）16 全宮城

○…宮崎は4番、6番で好スタートを切ったが、愛媛は5分過ぎよりベテラン高橋を投入、好リードとパスワークで攻守のバランスが取れ着々と加点、一方、宮崎はディフェンスの前よりの無理なシュートを愛媛の速攻にリードをゆるした攻撃に一工夫がほしかった。愛媛GKの好守は得点差以上にゲームを盛り上げた。（青木）

得	【愛媛】		【宮城】	得
0	福田	GK	熊谷	0
0	塩田	GK	高橋	0
1	塩崎	FP	若生	0
8	土井	FP	菊地	1
1	神野	FP	千葉	7
0	水安	FP	大友	1
3	加藤	FP	桜井	1
1	近藤	FP	弓場	2
4	神野	FP	蛇石	1
0	田中	FP	小野	1
5	高橋	FP	佐藤	2
3	藤田	FP	藤原	0
		（審・稲生・小川）		
26	(2)	PT	(2)	16

熊本本田技研 36（14－10 22－13）23 御坊ク（和歌山）

得	【本田】		【御坊】	得
0	岩本	GK	前	0
0	森	GK	栗原	0
6	田上	FP	左成	1
8	斉所	FP	北畠	5
0	入江	FP	井原	8
6	松永	FP	竹田	2
1	岩永	FP	大橋	2
3	岡崎	FP	森	3
4	佐伯	FP	松浦	1
6	中村	FP	伊藤	1
2	鯖江	FP	三木	0
0	益田	FP		
		（審・青木・春原）		
36	(4)	PT	(1)	23

○…前半、和歌山の若さあふれる攻守はベテランが多い本田技研熊本の巧みな攻撃と正確なシュートにより、思うようなゲーム運びができなかった。特に木田技研熊本のゲームメーカー2番の巧妙なプレーさばきについていけない場面があった。後半は、本田技研熊本の速攻にいまひとつ足がついていけなかったようだ。しかし、最後まで一生懸命にゲームにとり組む姿は見ている者に非常に好感をもたらした。（小川）

大崎電気（埼玉） 34（13－15 21－4）19 全石川

得	【石川】		【大崎】	得
0	能谷	GK	矢内	0
0	藤井	GK	原田	0
6	橋本	FP	斉藤	7
1	古橋	FP	東江	5
3	覚間	FP	武田	1
2	土山	FP	長野	6
4	酒井	FP	楢田	1
2	黒田	FP	松田	3
0	西田	FP	越迫	3
0	中田	FP	大沢	0
1	山田	FP	宮崎	4
0	八日市屋	FP	星野	3
		（審・小川・稲生）		
19	(0)	PT	(0)	34

○…埼玉は速いパスワークとコンビプレーで石川の守りを崩し得点、又、GKの好守から繰り出す速攻で加点し前半で大差をつけた。石川は埼玉の固い守りを攻めあぐんでいたが、後半に入りペースをつかみ追い上げるもあまりにも前半の失点が大きすぎた。最後まで力をぬかずプレーした石川の健闘をたたえたい。（春原）

わかくさク（奈良） 38（19－9 19－12）21 大電会

得	【わかくさ】		【大電会】	得
0	丸山	GK	伊藤	0
0	佐伯	GK	為末	0
4	佐川	FP	河村	0
4	阪木	FP	渡辺	4
2	福西	FP	清水	0
7	小林	FP	竹下	0
8	五村	FP	二宮	5
5	金丸	FP	工藤	2
5	村田	FP	足立	4
2	菅沼	FP	園田	1
0	谷	FP	安部	0
1	田中	FP	島村	5
		（審・矢澤・横瀬）		
38	(4)	PT	(0)	21

○…半ば過ぎまで両チーム一進一退で均衡したゲーム展開が続

く、中盤大分が2点のリードを奪った。しかし奈良も良く走り、速攻ですぐに追いつき逆転、その後は終始リードの展開が続き前半終了。後半、大分はステップ、カットインから得点するが奈良の守りが良く差は縮まらない。奈良6番の豪快なシュート、大分11番サイドシュートが光った。高さとパワーの違いが出たゲームであった。（加藤）

全神奈川（神奈川）23（10 13｜10 8）18 花巻ク

得	【神奈川】		【花巻】	得
0	本田	GK	鎌田	0
0	吉田	GK	藤原	0
2	平野	FP	谷川	1
5	塩谷	FP	阿部	1
1	斉田	FP	田村	0
3	石川	FP	谷藤	1
0	松本	FP	平野	0
1	鶴留	FP	吉田	0
4	堀越	FP	大沢	1
2	池田	FP	及川	1
1	黒沢	FP	山口	4
4	海老原	FP	中島	9

（審・遠藤 加藤）

23 （2） PT （4） 18

○…神奈川は立ち上がり4分にうまい速攻で先取点をとり、ペースに乗ってサイドシュート、ポストシュート、速攻をミックスして着々と加点する。対する花巻は固いディフェンス陣に悩み、速攻をふかし、ペナルティースローをはずして苦境に陥いる。実力的には互角の両チームだが、後半マイペースを取ろうと両軍必死の攻防も両者とも相ゆずらぬ展開であったが、花巻は前半の失点がどうしても取りかえせず涙をのんだ。神奈川GK12番の好守が光った試合であった。（矢澤）

大阪イーグルス 29（12 17｜9 15）24 下関ク（山口）

得	【大阪】		【下関】	得
0	信貴	GK	杉村	0
0	本田	GK	中野	0
0	千野	FP	沖田	0
3	源野	FP	島中	11
0	足羽	FP	浜本	5
3	大西	FP	岡田	6
0	飯田	FP	中川	2
3	成瀬	FP	天野	0
4	勝木	FP	間下	0
4	三谷	FP	吉村	0
12	辻本	FP	橋木	0
		FP	中川	0

（審・横瀬 矢澤）

29 （2） PT （5） 24

○…両チームともスローテンポのゲーム展開となったが、ボールコントロールに勝る大阪がゲームを有利に進める。山口は、大阪ディフェンスを攻めきれず苦しい展開だが、長身の3番、8番を中心によくくい下がり前半大阪が2点リードで終了。後半に入り、10分まで一進一退のゲームだったが、大阪が2名の退場者を出しながらもGK12番の好守で守りきり要所を締めた大阪の勝利。大阪はディフェンスが荒く反省が必要。山口はもう一歩及ばなかった。（遠藤）

大同特殊鋼（愛知）37（18 19｜15 10）25 千葉教員

得	【大同】		【千葉】	得
0	上村	GK	釜谷	0
0	柳川清	GK	塩原	0
3	田中	FP	浅原	4
3	田口	FP	内記	0
5	小野	FP	八重盛	1
5	柳川実	FP	山上	1
6	大原	FP	頓部	0
5	中本	FP	仲田	5
1	市川	FP	松井	12
5	蒲生	FP	槙村	1
3	高村	FP	大鐘	1
1	河井	FP	飯名	0

（審・加藤 遠藤）

37 （4） PT （4） 25

○…愛知は試合開始早々に千葉のパスミスより速攻で先取点、堅いディフェンスと速い走りで着々と加点し千葉を寄せつけなかった。千葉も7番のロングシュートとサイド攻撃で応戦するが力及ばなかった。千葉GKの再三の好守が光った。（横瀬）

▽3回戦

湧永製薬 29（11 18｜11 7）18 沖縄選抜

得	【沖縄】		【湧永】	得
0	新垣	GK	大城	0
0	東迎	GK	井藤	0
3	宮城	FP	池ノ上	5
3	高良	FP	生駒	6
1	慶田城	FP	穂積	3
1	城間	FP	藤本	3
3	知念	FP	志賀	0
0	前田	FP	中川	2
1	荷川取	FP	檜原	1
1	新里	FP	松本	3
3	喜舎場	FP	山本	6
2	黒島	FP		

（審・稲生 小川）

18 （3） PT （5） 29

○…平均身長において差のある沖縄が、早い動きから攻撃を仕かけていくが、広島も長身を利してのミドルシュートや、速攻で対抗する。

全日本選手を4人揃えている広島は、特に動ずる色もなく着々とマイペースで加点していく。

総体的に沖縄県が善戦した試合であり広島県の貫録勝ちであった。（矢澤）

三陽商会 28（13 15｜14 13）27 湯沢ク

得	【湯沢】		【三陽】	得
0	吉田	GK	大山	0
		GK	内野	0
0	佐藤文	FP	関	9
6	佐々木	FP	金子	0
1	吉関	FP	田口	3
4	菅野	FP	坪子	0
0	近野	FP	砂川	4
3	佐々木	FP	山口	4
0	藤原	FP	石原	5
8	半田	FP	望月	1
5	斉藤	FP	鵜沢	0
0	佐藤久	FP	亀井	2

（審・上久保 北井）

27 （3） PT （3） 28

○…クラブチームの強剛秋田が日本リーグ東京にどんなゲームをするか興味がもたれたが、秋田はGKの好守と、8分相手2名の退場中に点差を広げ、25分までリズムに乗ってリードを保っていたが、25分逆に2名の退場者を出し東京に反撃され、東京2点リードで前半終了。後半互いに持ち味を発揮し、18分同点から1点を争う好ゲーム、終了直前秋田は同点にするチャンスに痛魂のパスミス、シュートミスで大魚を逸した。秋田GKの好守と東京のディフェンスのもろさが目立ったゲーム。（斉藤）

栃の葉ク 43（20 23｜9 14）23 福島教員

○…開始より一進一退のゲームとなった。15分過ぎより栃木はGK1番の好守もあり速攻を中心に得点を重ねた。一方、福島も懸命に攻めるが栃木ディフェンスを崩せず苦しい展開となる。後半に入

得	【福島】		【栃の葉】	得
0	富田	GK	高橋	0
0	熊谷	GK	岩下	0
2	佐藤	FP（審・栗城 内田）	川田	4
3	後藤		河先	5
5	上野		中山	4
2	根本		山本	0
1	藍原		小西	5
3	遠藤		大出	5
4	小沼		滝口	7
2	菅野		鈴木	2
0	斉藤		名嶌	10
1	阿部		岸	1
23	(2)	PT	(3)	43

っても福島は栃木の速い攻めを守りきれず点差を開く。福島もゴールをねらうが好守にはばまれ点差をつめることができない。栃木の速い攻めが福島を上回り、福島も頑張るが力及ばずゲーム終了。（遠藤）

あかぎク 22（13－7 9－8）15 全滋賀

得	【滋賀】		【あかぎ】	得
0	石田	GK	譲原	0
0	太田	GK	野口	0
0	位田	FP（審・畠山 増田）	斉藤	0
2	伊藤		越石	0
6	能波		永井	5
1	井上		今井	1
1	武田		高梨	4
0	大野		岡田	5
0	橋山		栗田	0
5	村崎		石井	1
0	森		寺山	1
0	林田		三浦	5
15	(3)	PT	(6)	22

○…立ち上がり、両チームゆっくりとしたセット攻撃の展開ではじまる。中盤になりディフェンス力にやや勝る群馬が速攻につなげ13－7で前半終了。後半、滋賀も能波を中心に反撃するも、強化された群馬をくずすまでに至らなかった。群馬のディフェンスの勝利。（田村）

本田技研鈴鹿 33（15－7 18－11）18 愛媛選抜

得	【鈴鹿】		【愛媛】	得
0	大畑	GK	福田	0
0	中尾	GK	塩田	0
0	佐々木	FP（審・大橋 久保田）	塩崎	1
3	三本松		土井	7
1	嘉井		神野広	0
1	豊岡		水安	0
4	尾上		加藤	1
1	玉井		近藤	1
7	栗屋		神野公	1
5	立木		田中	3
5	田野		高橋	4
6	坂本		藤田	0
33	(7)	PT	(3)	18

○…前半立ち上がり、愛媛選抜のパスワーク悪く本田技研にたて続けに3点連取される。愛媛もよく追い上げたが本田技研の堅い守りに突破口が開けず次第に点差が開いていった。後半も脚力に勝る本田技研が着々加点し試合をものにする。実業団チームと選抜チームの差がある試合だった。（横瀬）

大崎電気 22（11－8 11－9）17 本田技研熊本

得	【本田】		【大崎】	得
0	岩本	GK	矢内	0
0	森	GK	原田	0
4	田上	FP（審・菊地 羽田）	斉藤	3
1	斉所		東江	5
0	入江		武田	3
5	松永		長野	7
0	岩永		楠田	0
0	岡崎		松岡	3
7	佐伯			
0	中村		大沢	1
0	鯖江		宮崎	0
0	益田		星野	0
17	(1)	PT	(2)	22

○…両チームともパスミス、シュートミスが続き、やや動きの悪い展開であったが、埼玉は4分過ぎよりパスのコンビがとれ着々と加点した。一方熊本は、8番のロングシュートとポストプレーで反撃するも埼玉のGKの美技にはばまれ、前半11対8と埼玉リードで終了。後半に入り、埼玉は5番を中心に本来の動きを取りもどし、セット、速攻と確実に得点をあげた。熊本はシュートが8番に集中してしまうため埼玉ディフェンスの固い守りを破れず22対17で埼玉が勝利を握った。熊本GKのファイトあるプレイは大変好感がもてた。一方で両チーム合わせて11人の退場者がでるゲームには一考を要する感じがする。（内田）

わかくさク 31（16－9 15－14）23 全神奈川

得	【神奈川】		【わかくさ】	得
0	本田	GK	丸山	0
0	吉田	GK	佐伯	0
3	平野	FP（審・加藤 遠藤）	佐川	0
2	塩谷		阪本	6
2	斉田		福西	0
4	石川		小林	3
1	松木		玉村	9
1	鶴留		金丸	2
1	堀越		村田	6
4	池田		菅沼	4
5	黒沢		谷	0
0	海老原		田中	1
23	(2)	PT	(2)	31

○…立ち上がり奈良の速さと高さのある攻撃が効を奏し10分までに7対2とリードしたが、その後、神奈川もリズムを取り戻してサイド攻撃、速攻等で反撃し互角の内容となった。しかし奈良の長身選手に対するディフェンスが甘く、除々に差が開き16対9で前半終了。後半も奈良のポストに気をとられ出足の悪い神奈川のディフェンスに対し、奈良は早いパスをつなぎリズムのある攻撃で最後までリードをキープした。神奈川も最後まであきらめずよく戦ったが、前半の差を縮めるには及ばなかった。（栗城）

大同特殊鋼 27（16－9 11－10）19 大阪イーグルス

得	【大阪】		【大同】	得
0	信貴	GK	上村	0
0	本田	GK	柳川清	0
0	千野	FP（審・結城 田村）	田中	1
2	源野		田口	9
0	足羽		小野	2
1	大西		柳川実	2
0	飯田		大原	4
6	成瀬		中本	1
0	勝本		市川	1
6	三谷		蒲生	6
4	辻本		高村	1
			河井	0
19	(3)	PT	(6)	27

○…前半10分まで愛知7対0とリード、大阪は愛知の堅固なディフェンスを攻めあぐみ、一方的なゲーム展開になるかと思われたが、大阪も速攻のチャンスをつかみ得点の取り合いとなり、前半は16対9で終了する。
後半に入り、大阪はディフェンスでよく頑張り、脚力を生かしての動きから加点、7分には一時18対14と4点差まで詰めよったが、愛知は大型の選手を中心としたセットオフェンスから加点、メンバーチェンジを含め、終始余裕をもってゲームを進め27－19で終了する。（畠山）

▽準々決勝

湧永製薬 34（19－10、15－8）18 三陽商会

	【三陽】	得	【湧永】	得
GK	大山	0	大城	0
GK	内野	0	井藤	0
FP	関	3	池ノ上	9
FP	金子	0	生駒	7
FP	田口	1	穂積	2
FP	坪子	0	藤本	4
FP	砂川	4	志賀	4
FP	山口	4	中川	0
FP	石原	1	檜原	2
FP	望月	3	松本	2
FP	鶴沢	0	山本	4
FP	亀井	2		

（審・矢澤・権瀬）

34 （4） PT （3） 18

○…湧永のかたいディフェンスに三陽は攻め手が単調になりシュートが雑になって来た。一方、湧永は速攻で加点し、セットでは4番、3番を中心に身体の差を生かして得点していき前半15―8で終了した。後半も同じようなペースで一方的な試合であったが、日本を代表する湧永のマナーの悪さが目立つ大会である。（稲生）

あかぎク 29（11－12、18－12）24 栃の葉ク

	【栃の葉】	得	【かぎあ】	得
GK	高橋	0	譲原	0
GK	岩下	0	野口	0
FP	川田	5	斉藤	0
FP	河先	1	越石	0
FP	中山	6	永井	5
FP	山本	0	今井	6
FP	小西	1	高梨	5
FP	大出	2	岡田	2
FP	流口	7	栗田	0
FP	鈴木	0	石井	0
FP	名嘉	2	寺山	2
FP	岸	0	三浦	9

（審・上久保・北井）

29 （3） PT （0） 24

○…先攻、群馬はスタート好調で3連続ゴール、一方、栃木は攻撃のリズムが出ず苦しいスタートとなった。群馬12番が攻守し速攻に出るパターンが鮮やかであった。栃木は得点するが前半だけで退場者4人となり、リズムに乗り切れない。後半、栃木はリズムが戻り残り8分頃には2点差、4分には1点差に追い上げたが、大事な所で10番が失格（3回退場）逆転できない。群馬は良くボールを回し、カットインでチャンスをものにした。オーバーステップ、チャージングが両チームとも目立った。（加藤）

本田技研鈴鹿 29（15－10、14－3）13 大崎電気

	【鈴鹿】	得	【大崎】	得
GK	大畑	0	矢内	0
GK	中尾	0	原田	0
FP	佐々木	5	斉藤	5
FP	三本松	2	東江	2
FP	喜井	0	武田	2
FP	豊岡	0	長野	1
FP	尾上	4	橋田	0
FP	玉井	6	松岡	0
FP	栗屋	5	越迫	0
FP	立木	0	大沢	0
FP	田野	4	宮崎	1
FP	坂本	3	星野	2

（審・大橋・久保田）

13 （2） PT （2） 29

○…4回戦となると日本リーグ一部チーム同志が勝ち残り、試合の中にも高度な技術が見うけられ非常に白熱した好ゲームであった。前半三重は、埼玉のミスによる逆速攻とGK1番のすばらしい守りによって得点を重ね14対3と大差をつけ終了した。後半埼玉は2番を中心に追い上げのムードを何度かうかがわせたが、前半の大差がひびき逆転することはできなかった。（小川）

大同特殊鋼 27（13－10、14－10）20 わかくさク

	【わかくさ】	得	【大同】	得
GK	丸山	0	上村	0
GK	佐伯	0	柳川清	0
FP	佐川	0	田中	0
FP	阪本	2	田口	2
FP	福西	0	小野	1
FP	小林	3	柳川実	6
FP	玉村	3	大原	5
FP	金丸	4	中本	2
FP	村田	4	市川	0
FP	菅沼	4	蒲生	10
FP	谷	0	高村	1
FP	田中	0	河井	0

（審・菊地・羽田）

27 （0） PT （2） 20

○…立ち上がり奈良はよく動くもシュートミスが目立ったが、大同のディフェンスのスキをつき、6番、7番、8番の連続ゴールで12分6対4とリード、しかし、大同あわてず奈良のミスを速攻に結びつけ以後一進一退、残り5分9番のロング、6番の連続サイド得点で14―10大同リードで前半終了。大同はディフェンスがよくなりシュートカットからの速攻、セットでは9番を中心に点差を広げたがポスト攻撃でのシュートミスが目立った。奈良は守りが荒く退場者が多く苦しんだ。（結城）

▽準決勝

湧永製薬 26（15－5、11－9）14 あかぎク

	【あかぎ】	得	【湧永】	得
GK	譲原	0	大城	0
GK	野口	0	井藤	0
FP	斉藤	0	池ノ上	8
FP	越石	1	生駒	4
FP	永井	0	穂積	4
FP	今井	1	藤本	0
FP	高梨	3	志賀	0
FP	岡田	1	中川	0
FP	栗田	0	檜原	1
FP	石井	0	松本	2
FP	寺山	2	山本	6
FP	三浦	6	原田	1

（審・横瀬・矢澤）

26 （3） PT （4） 14

○…開催地の期待をうけて、群馬は立ち上がりから好プレーがつづき強豪広島に必死にくい下がったが、余裕のある広島が2点差をもって後半に入る。後半、攻め手を出し切った群馬はよく健闘したが、徐々に広島は差をつけてふり切った。大観衆のもと非常にもり上がりをみせた好ゲームであった。（北井）

大同特殊鋼 27（12－6、15－9）15 本田技研鈴鹿

	【鈴鹿】	得	【大同】	得
GK	大畑	0	上村	0
GK	中尾	0	柳川清	0
FP	佐々木	5	田中	1
FP	三本松	1	田口	5
FP	喜井	0	小野	2
FP	豊岡	1	柳川実	2
FP	尾上	1	大原	3
FP	玉井	1	中本	4
FP	栗屋	1	市川	1
FP			蒲生	6
FP	田野	3	高村	2
FP	城本	2	河井	1

（審・上久保・北井）

27 （1） PT （2） 15

○…立ち上がり愛知は、たてつづけに警告をとられディフェンスのリズムをとるのに苦労する。三重はこの間をうまく利用して3点先行する。しかし、10分過ぎから愛知もリズムを取り戻し、9番を中心に速攻やロングシュートで着々加点しリードを保つ。これに対し三重も速攻とポストシュートでくい下がるも点差は縮まらず前半を終了。後半に入って、愛知は完全にマイペースを取り戻し、ロングシュートあるいは速攻で点数を重ね引き離しに成功する。これに対する三重は、疲れが出たのか攻守ともリズムを乱し単調な攻めでGKの好守にはばまれる。前半同様の旺盛な闘志と脚力が持続すればと惜しまれる。愛知は後半立ち上がりの勝負どころをとらえた作戦勝ちであった。（矢澤）

▽3位決定戦

本田技研鈴鹿 23（12－7、11－10）17 あかぎク

	【鈴鹿】	得	【あかぎ】	得
GK	大畑	1	譲原	0
GK	中尾	0	野口	0
FP	佐々木	2	斉藤	0
FP	三本松	0	越石	0
FP	喜井	0	永井	2
FP	豊岡	3	今井	2
FP	尾上	2	高梨	6
FP	玉井	6	岡田	2
FP	栗屋	1	栗田	1
FP			石井	0
FP	田野	6	寺山	0
FP	城本	2	三浦	4

（審・後藤・島田）

17 （3） PT （2） 23

○…前半三重は速攻などで着々と得点する。一方群馬はサイドシュートなどで得点し、1点を争う好ゲームを展開する。後半に入り三重はポストプレーや速攻などでチャンスを確実にものにした。群馬はノーマークシュートを再三GKに好補されチャンスをつぶした。中盤よりロングシュートなどで追い上げたが追いつかず試合終了となった。（浅川）

▽決勝

湧永製薬 24（11—9 13—8）17 大同特殊鋼

得	【大同】		【湧永】	得
0	上村	GK	大城	0
0	柳川清	GK	井藤	0
0	田中	FP	池ノ上	7
4	田口	（審・上久保・北井）	生駒	5
2	小野		穂積	4
3	柳川実		藤本	2
0	大原		志賀	1
2	中本		中川	0
1	市川		檜原	0
4	蒲生		松本	0
1	高村		山本	4
0	河井		原田	1
17	(3)	PT	(2)	24

○…立ち上がり、両チームとも約5分得点がなく、その後広島は3番のミドルシュートで着々と加点しペースをつかむ、それに反し愛知は9番のシュートがことごとくはずれペースに乗れず前半を終る。

後半に入り、愛知ディフェンスが強くなり一時は2点差までつめたが、その後16分頃から再び広島がペースをつかみ勝利をものにした。（町田）



成年男子決勝・湧永対大同戦

成年女子

▽1回戦

日立栃木（栃木） 42（21—4 21—2）6 徳山ク（山口）

得	【徳山】		【日立】	得
0	小山	GK	椿谷	0
0	高橋	GK	蔦生	0
2	伊ケ崎	FP	大高	1
1	小川	（審・上久保・北井）	栗原	2
0	岡村		西山	5
0	中村		土屋	5
0	牛尾		手打	1
0	徳原		前田	14
2	原		清水	4
0	金田		吉田	6
1	松田		井沢	2
			藤田	0
6	(0)	PT	(3)	42

○…日立栃木は、開始直後7番がミドルシュートを決めて快調にスタートした。徳山はディフェンスが甘く、パスのスピードと走力を生かした速攻を主として多彩な攻めで得点を重ねる日立栃木のワンサイドゲームで、前半全員得点の12対2で終了する。

徳山は、後半も日立の速い動きにとまどい、ディフェンスの壁を破れず前半同様の内容で日本リーグのチームとクラブチームの力量差がみられ、徳山は最後まで試合をすてず善戦したが、はっきりした一方的なゲームで日立栃木が順当勝ちをした。（畠山）

北国銀行（石川） 32（14—2 18—6）8 えひめ（愛媛）

得	【えひめ】		【北国】	得
0	山本	GK	辻	0
0	石川	GK	竹中	0
0	中津	FP	中川	9
0	杉内	（審・稲生・小川）	八木	6
0	高橋里		和田	0
1	田鍋		中田	6
1	秋山		竹	2
0	松浦		山崎	1
0	村上		大西	2
3	黒瀬		丸山	4
0	森田		小玉	2
3	高橋英			
8	(1)	PT	(1)	32

○…前半開始早々に北国銀行は8番が左サイドからシュートを決め先行し、その後4点連取する。しかし、それから一進一退の攻防がつづき愛媛もよく帰陣を早くしてディフェンスを頑張り、一時は6対3とゲームの興味を持たせたが、以後3番を中心とした北国銀行が得点を引き離し前半を終了する。後半は走力、シュート力等に勝る北国銀行がよく走り加点し、一方的に終る。（増田）

日本ビクター（茨城） 25（13—9 12—8）17 ムネカタ（福島）

得	【ムネカタ】		【日ビ】	得
0	岩瀬	GK	渡辺	0
0	清水	FP	村上	5
0	藤谷	（審・後藤・島田）	志村	4
2	岡部		中根	0
4	吉田		枝川	0
2	小林		長田	7
1	石田		門脇	0
5	大河原		下條	5
2	佐藤		遠藤	1
1	和知		染谷	1
			池田	2
17	(1)	PT	(2)	25

○…前半は福島の攻撃が相手ディフェンスの中にカットインできず、ミドルシュートだけで得点しているが、茨城も攻撃に決め手がないままに終った。後半に入り、茨城のサイド攻撃が成功した所からリズムが良くなって着々と加点した。福島も良く走ったがパスミスの多いのが目についた。（町田）

▽2回戦

立石電機（熊本） 25（15—11 10—10）21 日立栃木

得	【日立】		【立石】	得
0	椿谷	GK	井村	0
0	蔦生	GK	荒木	0
4	大高	FP	是枝	2
5	栗原	（審・菊地・羽田）	桑原	3
1	西山		亀園	2
3	土屋		山口	0
0	手打		薮田	3
6	前田		喜久山	1
0	清水		岩村	3
2	吉田		近藤	4
0	井沢		江口	7
0	藤田			
21	(2)	PT	(6)	25

○…スローオフより激しい動きで攻撃を継続する日立が先行。7分過ぎ熊本は堅実なプレーで逆転したが、すぐ同点となる展開。17分熊本2点差とし主導権を握るかと見えたが果たせず、逆に終盤栃木が2点アヘッド。しかし熊本はあざやかなスカイプレーで前半同点。後半も一進一退の展開でスタート。10分過ぎ熊本3点リード。この後、栃木のPTを好守した熊本GKの活躍もあり、攻守に安定感を取り戻した熊本が徐々に点差を開いて快勝した。（北井）

光電ク（群馬） 52（28―1 / 24―5）6 函館ク（北海道）

	【光電】	得	【函館】	得
GK	五十嵐	0	小鹿	0
GK	高橋左	0	桶戸	0
FP	高橋敏	1	古川	0
FP	大手	9	米田	2
FP	土筆	10	藤田	2
FP	松井ゆ	4	佐藤	0
FP	小林	2	小島	1
FP	山本	3	藤本	1
FP	佐藤	7		
FP	吉沢千	4		
FP	松井洋	7		
FP	吉沢る	5		

（審・上久保・北井）

6 (0) PT (7) 53

○…地力に勝る群馬は前半からペースに乗って試合を進めた。群馬の得点は速攻を主体とする攻撃によるものでセットオフェンスからの攻撃はあまり見られなかった。北海道の攻撃は群馬の守備を攻められず、フローターの単発シュートは見られるもののなかなか得点を得ることは出来なかった。後半に入ると群馬の攻撃もペースを落としセットからの攻撃が多くなったが、それでも確実に得点を重ね北海道を圧倒した。（菊地）

大和銀行（大阪） 28（13―11 / 15―10）21 北国銀行

○…立ち上がりから大阪は石川のエース3番をマーツーマンで守り、苦しまぎれの石川のシュートをGKの好守から速攻、先手をとる。石川はねばって13分過ぎ逆転するが大阪も盛り返して一進一退。やや力に優る大阪が13―12で前半終了。後半も先手をとりリードを広げようとする大阪に対し、石川もミドルシュートが決まり出して必死に追い上げるものの、総合力にやや優る大阪が次第に点差をつけて振り切った。両チームとも日本リーグ同士で迫力のある好ゲームであった。（北井）

	【北国】	得	【大和】	得
GK	辻	0	高浜	0
GK	竹下	0	松本	0
FP	中川	5	鈴木	0
FP	八木	11	若杉	9
FP	和田	0	前田	0
FP	中田	0	内窪	0
FP	竹	2	馬渡	5
FP	山崎	0	天谷	1
FP	大西	1	川添	7
FP	丸山	0	高橋	6
FP	小玉	0	西野	0
FP	河原	2	田畑	0

（審・菊地・羽田）

28 (4) PT (3) 21

日本ビクター 31（11―11 / 11―11 / 5―5 / 4―3）30 ブラザー工業（愛知）

	【日ビ】	得	【ブ工】	得
GK	渡辺	0	畑添	0
GK			大薮	0
FP	村上	5	原田	0
FP	志村	12	竹内	9
FP	中根	4	赤井	2
FP	枝川	0	中村	2
FP	長田	6	増永	10
FP	門脇	0	太田	3
FP	下條	2	松岡	0
FP	遠藤	0	森山	2
FP	染谷	2	松下	2
FP	池田	0		

（審・上久保・北井）

20 (1) PT (7) 31

○…立ち上がり、愛知はディフェンスが粗く退場者が続出し、茨城がその隙につけ込み8対3とリードする。しかし、茨城のオーバーステップ、パスミスに乗じた愛知は、20分過ぎに同点に追いつき11対11で前半終了。後半に入り、動きの良くなった愛知は、茨城の2人退場時に3点差とリードを広げるが茨城もねばりタイムアップ寸前速攻で同点に追いつく。第一延長5対5で第二延長に入る。第二延長の前半2対0でリードした茨城がねばる愛知を31対30でふり切った。内容のあるすばらしい試合であった。（羽田）

▽準決勝

立石電機 18（9―5 / 9―10）15 光電ク

	【光電】	得	【立石】	得
GK	五十嵐	0	井村	0
GK	高橋左	0	荒木	0
FP	高橋敏	0	是枝	0
FP	大手	2	桑原	0
FP	土筆	6	亀園	2
FP	松井ゆ	0	山口	0
FP	小林	0	薮田	2
FP	山本	0	喜久山	1
FP	佐藤	2	岩村	2
FP	吉沢千	0	近藤	4
FP	松井洋	2	江口	7
FP	吉沢る	3	橋口	0

（審・後藤・島田）

18 (2) PT (2) 15

○…立ち上がりやや動きが堅い熊本に対し、群馬4番のステップシュートが鮮かに決まり地元の大声援を受けながらスタートし、スピードに優る熊本が速攻、ポストで加点すれば、群馬は4番のステップシュートで追い上げ前半を9対5熊本リードで終る。後半に入っても群馬のすばらしい闘志が熊本のあせりを呼び、20分過ぎには14対14の同点となり勝敗の行方はわからなくなったが、熊本はメンバーを大幅に変え、ディフェンスもよくなり6点連取で勝負を決めた。（市瀬）

日本ビクター 23（13―7 / 10―15）22 大和銀行

	【日ビ】	得	【大和】	得
GK	渡辺	0	高浜	0
GK			松本	0
FP	村上	1	鈴木	2
FP	志村	8	若杉	5
FP	中根	3	前田	0
FP	枝川	0	内窪	0
FP	長田	6	馬渡	3
FP	門脇	0	天谷	0
FP	下條	3	川添	9
FP	遠藤	0	高橋	3
FP	染谷	2	西野	0
FP	池田	0	田畑	0

（審・藤田・市瀬）

22 (2) PT (3) 23

○…立ち上がり両チーム一進一退の攻防、16分過ぎ茨城は6つの速攻と1つのペナルティースローで7点を連取し試合を優位に進めた。後半、動きの止まった茨城に対しロングシュートが決まり始め自分たちのペースを取り戻した大阪は、速攻、遅攻と次第に追い上げ22分1点差まで茨城を追いつめたが、茨城も必死に守り1点差のままで終了の笛を聞いた。前半の得点差が大きくひびいた試合だった。（後藤）

▽3位決定戦

大和銀行 23（10―12 / 13―8）20 光電ク

○…立ち上がり硬さの見られる群馬のディフェンスをついて大阪がサイドシュートを決めたが、群馬は3分過ぎ大阪のパスミスからの速攻を3点連続決め、前半はその後一進一退、2点差で終了。後半に入り、大阪はロング、速攻で

得	【大和】		【光電】	得
0	高浜	GK	五十嵐	0
0	松木	GK	高橋左	0
2	鈴木	FP	高橋敏	0
4	若杉	FP	大手	2
0	前田	FP	土筆	5
1	内藤	FP	松井ゆ	0
7	馬渡	FP	小林	0
2	大谷	FP	山本	0
4	川添	FP	佐藤	4
3	高橋	FP	吉沢千	3
0	西野	FP	松井洋	4
0	田畑	FP	吉沢る	2
23	(3)	PT	(5)	20

（審・藤田、市瀬）

4点連取し一気に逆転し、群馬は6分過ぎまでノーゴール、地力に勝る大阪がその後も得点を重ね勝利。地元群馬11番の元気なプレーが目立った。（島田）

▽決勝

立石電機 19（10－7、9－5）12 日本ビクター

得	【立石】		【日ビ】	得
0	井村	GK	渡辺	0
0	荒木	GK		
0	是枝	FP	村上	0
0	桑原	FP	志村	3
1	亀園	FP	中根	2
0	山口	FP	枝川	0
8	薮田	FP	長田	5
4	喜久山	FP	門脇	1
1	岩村	FP	下條	1
2	近藤	FP	遠藤	0
3	江口	FP	染谷	0
0	橋口	FP	池田	0
19	(1)	PT	(2)	12

（審・後藤、島田）

○…茨城が先取してゲームがはじまり両チームとも固い守りと速いボール廻しでシーソーゲームとなる。茨城は3番のロングシュート、10番のアシストで加点すれば熊本は6番、7番の活躍で追いつき、その後やや熊本ペースで前半を終る。後半に入り、熊本は速攻がよく決り、一方茨城はミスが目立ちはじめシュートも熊本GKによるファインプレーではばまれひき離された。（市瀬）



成年女子決勝・立石・薮田のシュート決まる

少年男子

▽1回戦

愛知選抜（愛知）30（11－7、19－13）20 県湯沢高（秋田）

得	【愛知】		【湯沢】	得
0	橋本	GK	大沼	0
0	長船	GK	市川	0
4	吉見	FP	高橋	2
5	平松	FP	伊藤	0
3	柴田	FP	長沢	10
3	加藤	FP	斉藤慎	7
2	宮崎	FP	松田	0
3	野村	FP		
7	酒井	FP	斉藤敏	0
1	井上	FP	佐藤	1
0	乙子	FP	赤平	0
2	塩坂	FP		
30	(3)	PT	(1)	20

（審・菊地、羽田）

○…湯沢高は再三ロングシュートを放つが今一歩決め手をかき、一方、愛知選抜はGK1番の再三にわたるファインプレーが見られ攻守にわたり目についた。GKからの速攻により着々と得点を重ねた愛知選抜の楽勝であった。（大橋）

全石川（石川）29（12－8、10－14、2－2、1－5）25 北海道選抜（北海道）

得	【石川】		【北海道】	得
0	林	GK	小野	0
0	釜田	GK	堀	0
1	村中	FP	茂木	5
6	吉田	FP	畑沢	0
8	寺下	FP	酒井	3
6	永井	FP	堀江	0
3	矢地	FP	黒荻	0
0	中井	FP	川口	9
0	村井	FP	小野	4
0	竹	FP	上林	2
2	泉	FP	勾坂	0
3	古谷	FP	今井	2
29	(3)	PT	(0)	25

（審・栗城、内田）

○…相互に荒いディフェンスで試合が始まり攻撃にミスも多かった。前半中頃まで北海道のリズムが悪く石川の楽勝かと思われたが、リズムを取った北海道が追いあげ12対8で前半終了。後半足の止まった石川を北海道が終了5分前にとらえ好ゲームとなり22対22で延長に入る。延長後半に入り、石川3番のロングシュート2得点でリズムを取った石川が勝利。（久保田）

全神奈川（神奈川）24（12－9、12－13）22 えひめ（愛媛）

得	【神奈川】		【えひめ】	得
0	杉浦	GK	中川	0
0	馬淵	GK	中山	0
2	森本	FP	野田	8
2	佐藤	FP	石丸	2
0	堀川	FP	井手	1
6	清水	FP	栗田	0
2	宮田	FP	浅井	6
0	市川	FP	山本	2
0	末武	FP	岩崎	2
5	飯田	FP	伊藤	0
7	斉藤	FP	青野	1
0	石渡	FP	山木	0
24	(2)	PT	(1)	22

（審・結越、田村）

○…えひめは立ち上がり、2番、7番の活躍で5対2とリードしたが、守りを固めた神奈川は、5番、3番、10番のコンビで10分には同点とし、サイド、ポスト、スカイプレー余裕のある攻撃で加点神奈川ペースで終った。えひめは前半終了直前に2人の退場者を出し、以後プレーに集中力が欠け惜しかった。しかし最後までゲームを捨てず頑張ったえひめの健闘は高校生の意気を示し好感がもてた好ゲームであった。（青木）

▽2回戦

久留米工大附高（福岡）30（14－7、16－7）14 愛知選抜

得	【愛知】		【久工】	得
0	橋本	GK	秋吉	0
0	長船	GK	坂本	0
2	吉見	FP	片山	6
3	平松	FP	甲斐	5
0	柴田	FP	久保田	0
1	加藤	FP	中西	3
1	宮崎	FP	野中	1
1	野村	FP	永松	11
1	酒井	FP	村田	2
0	井上	FP	樋口	0
0	乙子	FP	坂田	2
5	塩坂	FP	森下	0
14	(1)	PT	(2)	30

（審・山下、浜野）

○…立ち上がり、ペースのつかめぬ愛知は福岡に連続3得点を許したが、相手のミスを速攻につなぎ5分には3対3の同点とした。しかし、その後福岡のディフェンスを思うように破れずじりじりと引き離した。

両チームとも実によくきたえられてはいたが、足をよく使ったディフェンスとスピードにのった攻撃を生かした福岡が勝利をものにした。（後藤）

埼玉選抜 25（13−9　12−9）18 山口県高校選抜（山口）

	【山口】	得	【埼玉】	得
GK	前田	0	小林	0
GK	藤井	0	三原	0
FP	橋本	2	戸田	3
FP	中木	2	萩原	0
FP	今金	0	杉浦	1
FP	鳥里	6	浅利	0
FP	富永	3	菅沼	6
FP	森川	2	加藤	1
FP	弘岡	3	高橋	1
FP	横井	0	村田	3
FP	千葉	0	鈴木	3
FP	藤本	0	阿部	7
PT		(3)		(1)
計		18		25

（審・後藤・島田）

○…山口のサイド攻撃に対し、埼玉カットインプレーで応酬、互に譲らず一進一退の好ゲーム、中盤山口のミスを埼玉ポイントしやや優位に立つ。後半山口は反撃に転じるも埼玉の固いディフェンスに阻まれ苦戦、埼玉はスカイプレー、速攻と攻撃に幅があり、守ってはGK12番の好プレーもあって快勝した。（山下）

群馬選抜（群馬） 21（10−5　11−5）10 全石川

	【群馬】	得	【石川】	得
GK	清水	0	林	0
GK	山本	0	釜田	0
FP	浅香	0	村中	0
FP	下川	3	吉田	3
FP	小金沢	4	寺下	1
FP	上原	0	永井	0
FP	金井	4	矢地	2
FP	山本	1	中井	0
FP	柴田	5	村井	0
FP	松原	0	竹	0
FP	加藤	0	泉	0
FP	岡野	4	古谷	4
PT		(5)		(2)
計		21		10

（審・山下・浜野）

○…群馬は立ち上がりからサイドの攻撃を着実に決めたが、石川は群馬GK1番の好守で9分過ぎまで無得点、その後は一進一退。後半に入り、群馬は速攻からPTをとり、その後着実に得点を重ね危げなく逃げ切った。群馬のやや荒いディフェンスが気になる。（島田）

全神奈川 35（15−15　20−8）23 兵庫選抜（兵庫）

	【兵庫】	得	【神奈川】	得
GK	石山	0	杉浦	0
GK	高田	0	馬淵	0
FP	白石	1	森本	0
FP	藤本	4	佐藤	5
FP	天野	9	堀川	5
FP	下田	6	清水	10
FP	井上	3	富田	0
FP	高瀬	0	市川	0
FP	竹原	0	末武	0
FP	石井	0	飯田	5
FP	横山	0	斉藤	10
FP	猿丸	0	石渡	0
PT		(2)		(1)
計		23		35

（審・後藤・島田）

○…兵庫、神奈川出足は互角でスタート、ややディフェンスに荒い兵庫が退場者を出す間に、神奈川サウスポー5番が連続3得点、そのまま神奈川ペースとなり20対8で前半終了。後半も前半同様神奈川ペース、総合的に言えば神奈川の組織的プレーに対し兵庫は個人的プレーで終ってしまった感じである。（浜野）

▽準決勝

久留米工大附高 21（13−6　8−11）17 埼玉選抜

○…立ち上がり、福岡が2点先取し9分に埼玉がおいつき、その後は両チーム共一進一退が続いたが、24分福岡にパスミスが続きそれを埼玉が得点に結びつけ11対8で終る。後半に入り、福岡のディフェンスが堅くなり、埼玉のパスミスをさそい7分においつき、その後は一進一退が続いたが18分頃から再び埼玉にパスミスが出て福岡が逆転する。（町田）

	【久工】	得	【埼玉】	得
GK	秋吉	0	小林	0
GK	坂本	0	三原	0
FP	片山	9	戸田	1
FP	甲斐	2	萩原	0
FP	久保山	0	杉浦	1
FP	中西	0	浅利	0
FP	野中	0	菅沼	4
FP	永松	5	加藤	0
FP	村田	1	高橋	0
FP	樋口	0	村田	4
FP	坂田	4	鈴木	2
FP	森下	0	阿部	5
PT		(1)		(1)
計		21		17

（審・山下・浜野）

群馬選抜 21（11−8　10−11）19 全神奈川

	【群馬】	得	【神奈川】	得
GK	清水	0	杉浦	0
GK	山本等	0	馬淵	0
FP	浅香	0	森本	2
FP	下川	3	佐藤	0
FP	小金沢	7	堀川	1
FP	上原	0	清水	6
FP	金井	2	富田	0
FP	山本和	4	市川	0
FP	柴田	3	末武	0
FP	松原	0	飯田	3
FP	加藤	0	斉藤	7
FP	岡野	2	石渡	0
PT		(4)		(4)
計		21		19

（審・青木・春原）

○…立ち上がり、群馬は8番のサイドシュートで先行、一方、神奈川は3本のペナルティーミスがあったが1点を争う好ゲームを展開し、残り5秒5番のロングシュートが決まり1点リードで前半終了。後半に入り、群馬は相手ミスからの速攻で7点連続得点で主導権を握る。一方、神奈川は12分間得点できずその後10番のロングシュートで追い上げたが、21対19で群馬が逃げ切った。（浅川）

▽3位決定戦

埼玉選抜 23（10−4　13−12）16 全神奈川

	【神奈川】	得	【埼玉】	得
GK	杉浦	0	小林	0
GK	馬淵	0	三原	0
FP	森本	2	戸田	3
FP	佐藤	1	萩原	1
FP	堀川	0	杉浦	1
FP	清水	5	浅利	0
FP	富田	0	菅沼	1
FP	市川	1	加藤	1
FP	末武	0	高橋	0
FP	飯田	2	村田	6
FP	斉藤	5	鈴木	5
FP	石渡	0	阿部	5
PT		(1)		(2)
計		16		23

（審・浅川・町田）

○…両チームともロングシュートの打ち合いとなり淡々とした試合運びであったが、埼玉が13対12と1点リードで前半終了。後半に入り、埼玉は動きが良くなりロング、ポスト、速攻と自由自在に神奈川ディフェンスを破り着々と加点した。一方、神奈川はノーマークシュート、PTCをことごとく相手GKにシャットアウトされ自滅した感があり、結局23対16で埼玉が勝利を握った。やや闘志のない神奈川の動きは残念であった。（内田）

▽決勝

久留米工大附高 23（12−7　11−7）14 群馬選抜



少年男子決勝・久留工大附属高対群馬選抜

○…福岡のスピーディなコンビネーションプレーが冴え、群馬も大声援を背に健闘するも福岡優勢のまま前半11対7で終了。後半も一進一退が続くが、総合力に優る福岡が余裕のあるプレーで23対14で選抜、総体、国体と昭和58年度の3冠王に輝いた。（田村）

得	【久工】		【群馬】	得
0	秋吉	GK	清水	0
0	坂本	GK	山本等	0
9	片山	FP	浅香	0
2	甲斐	FP	下川	1
0	久保山	FP	小金沢	3
0	中西	FP	上原	0
3	野中	FP	金井	1
6	永松	FP	山本和	3
2	村田	FP	柴田	3
0	樋口	FP	松原	0
1	坂田	FP	加藤	0
0	森下	FP	岡野	3
23	(0)	PT	(2)	14

（審・山下、浜野）

少年女子

▽1回戦

小松市女（石川） 13（7−5 6−6）11 北海道選抜（北海道）

得	【北海道】		【小松】	得
0	越後谷	GK	大間	0
0	佐々木	GK	川北	0
0	大谷	FP	丹後	0
3	海道昭	FP	和田	3
6	海道元	FP	柴田	0
0	大釜	FP	野田	1
0	旭	FP	米田	1
0	長谷川	FP	福田	1
0	平田	FP	松下	1
2	三浦	FP	竹田	0
0	浜田	FP	林	1
0	佐藤	FP	中嶋	5
11	(0)	PT	(2)	13

（審・山下、浜野）

○…石川先攻でスタート早々3番のステップシュートで先取点をあげるが、北海道選抜はすぐにポストプレーで返す。両チーム0−6防御で良く守るが、スキをつき石川はサイド、ポストへと良くボールをつなぎ着々と得点を重ねる。一方、北海道は左利きを2人揃えて対抗、3番のペナルティ、ミドルで得点、主将2番もよくアシストでボールをつなぐがミスが目立ち2点差で前半終了。後半10分頃まで得点の入れ合い、10分過ぎより石川は攻めあぐみ1点差につめられる。そして5番が退場、この間に北海道4番のロングで同点とするが、逆に今度は6番が退場しムードに乗り切れず結局2点差で終了。石川はよく辛抱して守った。攻撃ではフローターがもう1人欲しいと思う。北海道の左利き2人の活躍が目立った。（加藤）

群馬選抜（群馬） 13（10−2 3−6）8 愛媛選抜（愛媛）

得	【群馬】		【愛媛】	得
0	大河原	GK	藤井	0
0	大沢	GK	岩井	0
3	江原	FP	楠橋	1
1	島崎	FP	宮武	0
4	野口	FP	白石	0
2	井上	FP	深田	3
0	渡辺	FP	田中	3
3	石井	FP	越智	1
0	田中	FP	鳥生	0
0	吉沢	FP	池田	0
0	春山	FP	八木	0
0	武田	FP	塚元	0
13	(1)	PT	(0)	8

（審・横瀬、矢澤）

○…両チームとも0−6ディフェンス、ダブルポスト、オフェンスで試合が展開された。群馬は地元応援が多いせいか固くなり、前半5分位までなかなか得点することができなかったが、2番、3番の長身を生かした多彩な攻撃で、13分頃には6対1とその差5点とし試合をリードした。愛媛は群馬の厚いディフェンスの前にパスミスが多くなり前半10対2と群馬が大きくリードした。後半愛媛は、動きのにぶくなった群馬に対し、スピードのある攻撃をみせその差を徐々につめたが、前半の得点差が最後までひびき13対8に終った。群馬はもう少し速攻に対して研究する必要があると思った。（藤田）

全福島（福島） 14（5−6 9−5）11 兵庫選抜（兵庫）

得	【兵庫】		【福島】	得
0	増田	GK	芦沢	0
0	宮本	GK	南舘	0
2	植田	FP	橋本	5
2	高岡	FP	五十嵐	0
0	米山	FP	朝倉	1
6	上西	FP	須藤	4
1	西淵	FP	安藤	0
0	岡	FP	伊藤	0
0	中村	FP	海村	2
0	新賀	FP	阿部	0
0	寺西	FP	後藤	1
0	塩崎	FP	星	1
11	(3)	PT	(4)	14

（審・遠藤、加藤）

○…福島は前半兵庫のミスから速攻（2ペナルティースロー）、10番のポストプレーなどで3得点をあげ優位にたつ、しかし、兵庫も15分2番のカットインプレーで同点にすると、14分、17分5番のポイントで逆転成功、前半は兵庫1点リードで終了。後半開始直後福島のポストプレーが決まり再度同点。その後、福島は2点のミドル、兵庫もサイドをうまく攻め、一進一退の好ゲーム、終盤福島の1ペナルティーと8番のうまいシュートで逆転勝ちをした。（山下）

▽2回戦

広島選抜（広島） 11（6−3 5−6）9 小松市女

○…前半、両チームとも試合開始時よりスピードのあるプレーを展開し、両GKの好守により見ごたえのあるゲームであったが、広島は3分、5分、8分と2番の活躍でペースをつかむ。また、石川は

得	【小松】		【広島】	得
0	大間	GK	山口	0
0	川北	GK	恵京	0
0	丹後	FP（審・大橋 久保田）	中嶋	6
6	和田		赤瀬	0
0	柴田		石田	0
0	野田		山崎	2
1	米田		池田	0
1	福田		沖田	1
0	松下		佐々木真	0
0	竹田		佐々木浩	0
0	林		大林	2
1	中嶋		相川	0
9	(1)	PT	(5)	11

15分、18分とペナルティーをはずしたのが痛く6対3で終る。後半広島は速攻からのペナルティーで加点し、石川は3番、4番のミドルシュートで加点とまったく一進一退が続いたが、前半の得点差をひっくり返すまでには至らなかった。（町田）

熊本女商（熊本） 15（7―6, 8―4）10 藤村女（東京）

得	【熊本】		【藤村】	得
0	前田	GK	南出	0
0	緒方	GK	三浦	0
0	立石	FP（審・浅川 町田）	比田	1
0	楠木		福岡	1
10	寄田		柳井	1
1	中野		山田	4
1	奥田美		星野	0
3	奥田恵		原	2
0	魚田		石川	1
0	岡村		永井	0
0	山形		山林	0
0	林田		竹村	0
15	(5)	PT	(4)	10

○…前半から東京5番、熊本4番のロングシュートの打ち合いで6対5と互角な戦いであったが、後半に入るや熊本4番のシュートが確実に決まり東京を振り切った試合であった。尚、東京のディフェンスに荒さが見られた。（大橋）

群馬選抜 22（8―4, 14―4）8 沖縄選抜（沖縄）

得	【沖縄】		【群馬】	得
0	垣花	GK	大河原	0
0	砂辺	GK	大沢	0
2	山入端	FP（審・大橋 久保田）	江原	5
0	新垣久		島崎	5
2	幸喜		野口	5
2	平良		井上	2
0	野山		渡辺	0
1	新納		石井	2
0	新垣清		田中	0
0	山本		吉沢	0
1	目取真		春山	0
0	福永		武田	3
8	(2)	PT	(2)	22

○…両チームとも立ち上がり固さがみられた。群馬は2番がマンツーぎみに守られボールがまわらず苦戦したが、5分後フリースローなどで得点ペースをつかんだ。一方、沖縄は12分すぎにペナルティーや速攻のノーマークシュートをはずし、得点できず8対4で前半を終了した。後半に入り、群馬は着々と得点しワンサイドゲームは22対8で終了した。（浅川）

愛知選抜（愛知） 14（6―4, 8―8）12 全福島

得	【愛知】		【福島】	得
0	小畠	GK	芦沢	0
0	松藤	GK	南舘	0
1	渡辺	FP（審・町田 浅川）	橋本	8
2	稲垣		五十嵐	0
0	高瀬		朝倉	0
3	長谷川		須藤	3
2	城		安藤	0
0	奥村		伊藤	0
5	山岡		海村	0
1	押水		阿部	0
0	堀田		後藤	1
0	矢野		星	0
14	(2)	PT	(5)	12

○…立ち上がり、福島は愛知のディフェンスの甘さをつきペナルティーで2点リード、波に乗るかに見えたが愛知も8番がフリースローで反撃、好ゲームとなった。福島がペナルティーを落としている間に愛知は速い攻撃で得点2点差で前半を終る。後半、福島が追い上げ同点としたが愛知8番のロングに突き放された。（久保田）

▽準決勝

広島選抜 20（8―3, 12―5）8 熊本女商

得	【熊本】		【広島】	得
0	前田	GK	山口	0
0	緒方	GK	恵京	0
0	立石	FP（審・町田 浅川）	中嶋	7
0	楠本		赤瀬	0
6	寄田		石田	1
0	中野		山崎	3
0	奥田美		池田	0
2	奥田恵		沖田	3
0	魚田		佐々木真	0
0	岡村		佐々木浩	0
0	山形		大林	5
0	林田		相川	1
8	(3)	PT	(3)	20

○…先行したのは熊本、ペナルティーでさいさきよいスタート、しかし、その後は広島の固いディフェンスに阻まれ攻めきれず、一方、広島は足を使った速い攻撃、熊本陣内で鋭く攻めて着々加点した。

後半、広島GKの思い切りのよいボール出しと2番の巧いボールカットなどで連続6ポイントあげ試合を決めた。

熊本もペナルティーで反撃したが時遅しの感じ、最後まで固いディフェンスは崩せなかった。（山下）

群馬選抜 11（4―3, 7―6）9 愛知選抜

得	【群馬】		【愛知】	得
0	大河原	GK	小畠	0
0	大沢	GK	松藤	0
5	江原	FP（審・青木 春原）	渡辺	0
1	島崎		稲垣	1
3	野口		高瀬	0
1	井上		長谷川	6
0	渡辺		城	1
1	石井		奥村	0
0	田中		山崎	0
0	吉沢		押水	0
0	春山		堀田	1
0	武田		矢野	0
11	(1)	PT	(2)	9

○…試合開始4分20秒群馬の2番のペナルティーで初得点、ともにディフェンスの堅さが伺がわれた。その後2番の連続4得点、愛知もよくねばり3得点、残念ながら群馬は9分後得点が取れず苦しんだ試合に見えた。後半群馬は地元の声援に活気づき一歩リード、愛知のねばりもすばらしさを感じたが及ばなかった。（浜野）

▽3位決定戦

愛知選抜 17（9―6, 8―6）12 熊本女商

得	【愛知】		【熊本】	得
0	小畠	GK	前田	0
0	松藤	GK	緒方	0
1	渡辺	FP（審・栗城 内田）	立石	0
1	稲垣		楠本	0
0	高瀬		寄田	7
7	長谷川		中野	4
1	城		奥田美	1
0	奥村		奥田恵	0
0	山岡		魚田	0
4	押水		岡村	0
2	堀田		山形	0
1	矢野		林田	0
17	(4)	PT	(0)	12

○…前半愛知がペナルティスローで先取点をあげ、その後愛知5番、熊本4番の打ち合いとなり、1点を争う好ゲームを展開したが熊本は15頃からミスが目立ちだし9―6と愛知リードで前半を終了した。後半に入り、愛知は着々と得点をあげる一方、熊本はミスで攻撃がちぐはぐになり得点できなかったが、17分頃から4、5番で反撃をしたが追いつかず、17―12で愛知の勝利となる。（浅川）

▽決勝

広島選抜 11（6―5, 5―5）10 群馬選抜

得	【群馬】		【広島】	得
0	大河原	GK	山口	0
0	大沢	GK	恵京	0
5	江原	FP（審・結城 田村）	中嶋	5
1	島崎		赤瀬	0
2	野口		石田	3
1	井上		山崎	1
0	渡辺		池田	2
0	石井		沖田	0
0	田中		佐々木真	0
0	吉沢		佐々木浩	0
0	春山		大林	0
1	武田		相川	0
10	(1)	PT	(3)	11

○…さすが決勝戦とあって、立ち上がり共に堅さが出たのかともに、シュートが決まらずあせり気味の試合運びとなったが、6―5と広島が前半一歩リード。

後半、地元の声援に支えられた群馬はよく頑張り広島に食いついたが、残念ながら1点差に泣いた。

両チームの素晴らしさに拍手を送りたい。（浜野）

●第3回アジアハンドボール選手権大会詳報●

韓国強し！堂々の初優勝決める

—日本惜しくも決勝で敗れ2位—

日本ハンドボール協会強化部長　渡辺慶寿

第3回アジアハンドボール選手権大会が韓国ソウル市の Seaul Jamsil Poly Gymnasium で1983年9月25日～10月1日の7日間行なわれた。

Seaul Jamsil Poly Gymnasium は1988年ソウル・オリンピックの時のメインスタジアム等の施設の一つであり、バスケットボールの会場でもある。集容人員は2万人にものぼるという大きなスポーツ施設である。

開会式にはその約半分の1万1千人ぐらいの人々が入り、大会を盛りあげるのに充分な人数であった。

試合は、Aグループ日本、バーレン、カタール、ヨルダン。Bグループは、クウェート、韓国、サウジアラビア、ホンコンの計8チームで、各グループ共1回戦の総当りの方式をとり、各グループより1位、2位を選び、最終的には、グループ間の1位、2位と争い、決勝進出を決めた。

その結果、Aグループは1位日本、2位バーレン。

Bグループは、1位韓国、2位クウェートの順となり、準決勝は、日本対クウェート、韓国対バーレンで争われ、決勝は、予想通り日本と韓国で韓国が25—19で初優勝を遂げた。

◇9月25日（日）観衆11000

Bグループ　PM3：30～

韓国　35（18—6, 17—15）21　サウジアラビア

審判　日本　上久保重次　北井晴次

体型的には、両者同じようであるが、サウジは西洋的である。プレーオフ後、韓国は、No.3姜泰求No.4姜徳寿、No.5朴英大のクロスプレーによってあっけなく得点する。一方サウジは、No.14 Talal H. A Hashem を中心としてボールを左右に展開して、防禦陣の中にボール持って入っていく、個人技を中心としたチームである。一方韓国は常に速い攻撃をするチームであり、前半で試合の勝敗を決した感があった。しかし後半サウジは立り直り、ポストプレー、ミドルシュートあるいはサイドより得点を重ね、韓国と互角に戦ったが、前半の大きな得点の開きを縮めることができなかった。

韓国チームのNo.13姜在源は高校生ながらNo.2林英喆の穴をうめ左利きシュートをよく決めチームに貢献した。

Bグループ　PM5：00～

クウェート　54（26—5, 28—10）15　ホンコン

審判　バーレン　Ali Abdul Razag Al Sairri　Fareed Hassam Ali

クウェートの一方的な試合となる。クウェートは前半26点を挙げ、試合の大勢を決めた。クウェートは、長身のNo.15 Majed Bakhit を中心に、ミドルシュート、サイドシュート、ポストよりのシュートを次ぎ次ぎに決め、前半のはじめに勝負を決めた。

一方ホンコンチームは、からだも小さく、ボールテクニック、特に基礎的技術に今一歩であり、ようやく得点を決めた時には1万観衆の同情的声援があった。

クウェートチームは、アジアで優勝したほどのチームでもあり、監督はハンガリーより招聘し、強化を計っており、プレーの内容をみてもヨーロッパスタイルである。

Aグループ　PM6：30～

バーレン　18（9—7, 9—7）14　カタール

審判　クウェート　Al Mazeedi Hadi Abdullah　Rajab Mohammad Saleh

バーレンの主将No.5 Nabeel Taha が、前半2点、後半5点を決め、チーム得点の要めとなった。

一方のカタールは、No.13 Eed Aman がポイントゲッターであり、前半2点、後半4点を決めた。両チーム似かよった構成であるが結局バーレンは、前後半を通じバランスのとれた得点経過をたどったことが勝因となったといえよう。

◇9月26日（日）観衆200人

Aグループ　PM2:00～

日　本　37（15―8／22―0）8　ヨルダン

審判　韓国
Chun Jo-Park
Byung Hoon-Ko

日本のチームは今大会はじめての試合をベストメンバーでのぞんだ。試合開始5分までに池ノ上、蒲生、生駒のシュートや西山の連続シュートのミスがあったが、その後西山がサイドからのシュートを決め、本来の日本らしさがでるようになった。試合の形勢は、前半の10分で決まったといえよう。

一方ヨルダンは、日本の防禦陣を崩すことができず前半を終る。後半ヨルダンはNo.2 Ibrahim の右45°よりのシュートやNo.9 Ismail のシュートが決まり8点を挙げたが、日本の一方的勝利を終った。

Bグループ　PM3:30～

韓　国　50（25―6／25―2）8　ホンコン

審判　日本　上久保重次
北井晴次

韓国は、No.2林英喆、No.3姜秦求、No.4裴徳寿をメンバーから除いての対戦である。

韓国チームは、1試合を通じ、常に選手の交代をおこない余裕のある戦いであった。

一方ホンコンは、韓国の速い攻めや、動きのある防禦に手も足もでない状態であった。

Bグループ　PM5:00

クウェート　21（12―11／9―7）18　サウジアラビア

◇9月27日（火）

Aグループ　PM2:00～

バーレン　35（16―12／19―11）23　ヨルダン

審判　韓国
Jong-Gap Park
chong-Hun kim

Aグループ　PM3:30～

日　本　28（15―8／13―9）17　カタール

審判　クウェート
Al Mazeedi Hadi Abdullah
Rajab Mohammad Saleh

日本チームは若手選手を起用、中でも高村は、前半5点、後半4点の合計9点を挙げ成長のあとがみられた。カタールは、前半20分までは、日本を8対6でリードし試合を有利に進めてきたが、20分後より高村に連続2点を許し同点とされてからは、形勢を日本のものとした。

Bグループ　PM5:00～

韓　国　32（18―16／14―11）27　クウェート

◇9月28日（水）観衆200人

Bグループ　PM2:00～

サウジアラビア　52（　―　／　―　）8　ホンコン

Aグループ　PM3:30～

日　本　31（12―7／19―9）16　バーレン

Aグループ　PM5:00～

カタール　21（　―　／　―　）19　ヨルダン

◇9月30日（木）観衆200人

●準決勝　PM3:30～

（Bグループ1位）韓　国　24（11―10／13―12）22　バーレン（Aグループ2位）

●準決勝　PM5:00～

（Aグループ1位）日　本　26（11―14／15―8）22　クウェート（Bグループ2位）

審判　ノルウェー
Ludvigsen
Sjong

日本山本サイドからのシュートを決めたがクウェートは次の攻撃でNo.6 Bedaih metcok によって同点とした。前半10分頃までは1点を争う攻防であったが、日本は10分後より、高村、池ノ上、山本によって連続得点をし、前半の7点リードの原動力となる。後半日本は山本、蒲生、池ノ上、高村と一気に4点を入れ、いよいよワンサイドゲームの色彩が濃くなったかにみえた。しかしクウェートは、後半5分過ぎより着実にNo.13 Adel najeh のシュートが決まりはじめ、後半残り時間3分ぐらいで1点差まで得点を縮め勝敗の予想を困難とした。日本は、その後西山のサイドシュート高村、池ノ上のミドルシュートが決まり勝利を得た。

◇10月1日（土）観衆1000人

●3、4位決定戦PM2:00～

クウェート　31（16―12／15―9）21　バーレン

クウェートのスローオフで始まる。バーレンはクウェートのミスを利用し、速い攻めで得点をする。続いてバーレンNo.8 Salem Abdulla Rahm が中央よりカットインして2点目を挙げる。バーレンは盛んに横ずれのパスから縦に切り込む。一方クウェートは5分過ぎ、No.15 Majed Bakhit 45°から中央に切り込み初得点、続いてクウェートはバーレンのパスミスから速攻を決め同点とした。

その後クウェートは、相手のシュート、パスミスを利用して速い攻めにより得点を重ね前半を15対9で大きくリードをした。後半もクウェートのペースとなった。

●決勝　PM3:30～

韓　国　25（17―12／8―7）19　日　本

審判　クウェート
Al Mazeedi Hadi Abdullah
Rajab Mohammad Saleh.

アジア選手権決勝・対韓国戦から

韓国の動きある防御に
最後までペースつかめず

ファイナルゲームは、10月1日午後3時30分クウェート審判によって管理され、1万の観衆の異様な雰囲気の中でおこなわれた。韓国の若い力が日本の老巧さに優るかは興味ある一戦である。

日本のスローオフ、早いパスワークで韓国陣に攻めたが、必要以上に激しい動きのある守り、一瞬全体の動きが止ったかにみえた。しかも防禦は的確にボールを持っている選手を懐に入れての激しい防禦アタックである。異様なまでの闘志溢れる状態である。日本も負けじと燃えているが、韓国はボールを手中に入れた時、速い攻めでボールをポストに入れ、先取点を簡単にとった。GK韓国林圭夏の好守により、再び速い攻めで4番姜徳寿の中央よりフェントによって2点目をあげる。韓国チームは1—5の防禦シフトであり、日本の前方よりのシュートを防ぐための考慮である。

日本の攻撃は、コンビプレーがうまくいかず攻めあぐむようであった。この間韓国はボールを手中に入れ、右側よりクロスプレーをしカットインして3点目をあげる。「あっ」というまの3点である。韓国はますます意気上がる勢いである。

しかし日本はペナルティーを得、池ノ上がスロー1点を返す。その後韓国は目のさめるクロスプレーによって4点目をあげる。日本も1点を返す。韓国はNo.14李相考退場で5人の攻撃であったが、No.4姜徳寿はサイドよりフェントをかけて抜き得点を重ねた。

その後の日本の攻撃で生駒がやや左側よりミドルシュートを決めた。続いて韓国のミスにより西山がサイドインしてGKの右下に決め4対5としたが韓国No.14李相考が中央よりミドルシュートを決め4対6とする。このミドルシュートは韓国としては、この試合初めての試みである。韓国No.3姜泰求反則をして、そく退場。日本山本ワンフェントによりシュートを決め5対6とした。韓国のシュートをGK井藤素早く処理をして池ノ上にワンパス、池ノ上もパスを受けシュートを入れ6対6とする。その後韓国は、中央のポストにパスを入れ、ポストよりサイドにボールをまわし、6対7とリードをした。残り時間1分生駒やや中央よりミドルシュートを決め7対7の同点とし、前半を終了するかにみえたが、韓国No.2林英喆、脚の故障をしてのひきずりながらの中央よりのシュートを決め7対8で前半のピリオドとした。

前半を終え、両者試合を盛り上げてはいるがそのわりには得点が少ない。韓国チームは乗りに乗っている印象である。観衆の演出の効果であろうか。

一度は日本リード

後半は、日本は蒲生、池ノ上、中本、生駒、西山、GK井藤。一方韓国は、林英喆、姜泰求、姜徳寿、朴秉洪、崔太燮、李相考、GK林圭夏によって、韓国スローによって始まった。

韓国は、セット攻撃によって、朴秉洪がGKの股下をねらい得点を7対9と日本を引き離し、再び韓国の攻撃になるや速い攻めでNo.3姜泰求の中央より右側に流れ込んでのシュートが入り7対10とした。その後日本はペナルティーをもらい山本スローして8対10とし、韓国No.4姜徳寿の退場する間、日本は韓国のシュートをGK井藤がとらえ西山に長いパス、サイドシュートにより9対10とした。西山再び韓国シュートミスを利用して速い攻めで10対10の同点。目まぐるしい攻防である。

日本はその後13対12と、この試合はじめてのリードであったが、蒲生が交代、日本のシュートミスによって勢いづいた韓国は、13対13とし、続いて13対14とリード、いよいよ勢いに乗った感じである。観衆も選手と一体となった声援、韓国のエネルギーがコート一杯に広がっている錯覚に捕らわる。

後半中盤までは、1点を争う攻防ではあったが、この期を機会にNo.2朴英喆の活躍、高校生のNo.13姜在源（左利き）のミドルシュートが決まり、ますます勢いに乗った。その後No.14李相考の連続得点は、試合を一方的なものにしていった。

一方日本は、韓国の動きのある強い防禦と全員ゴール中央に丸く集まっての攻撃となりペースを摑むことができない。しかし山本のペナルティースロー、池ノ上のシュート、蒲生のスリスロー、生駒のミドルシュート、志賀のポストよりのシュート、松井の速攻が決まり、残り時間5分頃までに19対22と追いついていったが韓国は、その後3点を速取19対25で韓国の勝利となった。

韓国チームは、執拗なまでに速い攻めに徹した。GK林圭夏の好守による速いボール出しとセット攻撃でも速い動きを止めることをしなかった。防禦においても的確なボディーアタックは日本のセット攻撃を随所で止めた。

日本チームは、韓国の動きのある防禦に少々手を焼いた感がある。特に後半になり、その傾向がでてきた。セット攻撃になった時のゴールエリア前の広がりがなく、冷静さを失ったようでもある。日本のペースを摑むことができなかったことを痛感する。

では、日本の勝利は全くなかったのであろうか。この試合のみから顧みるならば、前半のスローオフが韓国であったならば、そして、後半日本がはじめてリードした時、次の機会に着実に得点をしていれば、韓国の若い力はどのように変化していったかは興味あることである。いずれにしろ勝敗を決する要因は微妙な攻防によって位置付けられよう。

韓国ハンドボール名誉会長である洪淳泰氏は、私に「韓国はやるだけのことをやった。この日の来ることを待っていた」と言われた

11月におこなわれるロスオリンピックアジア選には、日本チームの体制作り如何んによる。若い力は勢いに乗ると止どまることを知らない。ましてや中国、クウェートも侮れない。冷静に受けとめ再度この体験を繰り返してはならない。

（渡辺慶寿）

第8回日本ハンドボールリーグ〈女子〉

立石電機 地元熊本で4連覇飾る

ジャスコの追撃をかわしリーグ26連勝！

前期・立石電機、ジャスコ、大崎電気が全勝の白熱の第8回日本リーグ（女子）は、9月11日から後期に突入した。いずれも好試合を展開したが、最終週で立石がジャスコを破り、全勝で優勝を決めた。立石はこれで驚異的な4連覇、またリーグ連勝記録も26と伸ばし、地元熊本での偉業達成に選手たちは感激に酔いしれていた。

▽後期第1週第1日
（9月11日・佐久市総合体育館）

大崎電気（4勝）18（11－4、7－10）14 ブラザー工業（2勝2敗）

	【大崎】	得	【ブ工】	得
GK	梅野	0	畑添	0
GK	藤田	0	大薮	0
FP	西	2	杏原	3
FP	大日	0	竹内	1
FP	宮嶋	0	赤井	0
FP	石井	3	中村	2
FP	渡部	1	増永	5
FP	徳渕	2	太田	0
FP	時實	3	松岡	0
FP	李相玉	5	塩屋	0
FP	李京姫	2	森山	0
FP	松尾	0	松下	3
PT		(1)		(2)
計		18		14

（審・平井、佐野）

○…立ち上がり気迫に勝る大崎が、西、李相玉などの得点で15分過ぎには一気に6－0とリード。ブラザーも中盤から少しずつばん回するが、前半で11－4と大差がついた。

後半に入ってブラザーは増永の素早い動きを中心に反撃、盛り返したが、前半の差があまりにも大きかった。

日立栃木（2勝1分2敗）23（8－7、15－7）14 北国銀行（4敗）

	【日立】	得	【北国】	得
GK	椿谷	0	辻	0
GK	葛生	0	新宅	0
FP	大高	1	中川	1
FP	栗原	1	八木	7
FP	西山	0	和田	1
FP	土屋	1	中田	2
FP	手打	0	竹	1
FP	前田	9	山崎	0
FP	吉田	5	藤田	2
FP	山本	2	小玉	0
FP	藤田	0	吉田	0
FP	山岸	4	大西	0
PT		(4)		(2)
計		23		14

（審・三枝、槇田）

○…前半は日立・前田、北国・八木の打ち合いで一進一退の好ゲームを展開、8－7と日立1点リードで終了。

後半はほぼ互角の立ち上がりを見せたが、5分過ぎ日立・古田の連続ゴールから流れが傾き、北国のシュートがことごとくGK葛生がとめ、北国は10分以上無得点。結局、この中盤せり負けたのが大きく、終盤再び追ったものの及ばなかった。

▽後期第2週第1日
（9月18日・生駒総公園体育館）

大崎電気（4勝1分）19（7－11、12－8）19 ジャスコ（3勝1分）

○…前半ジャスコの4点リードで終わったのだが、後半に入って両チーム共、ディフェンス、オフェンス共活発に動き出し、1点を争うシーソーゲームとなったが、最後、大崎・西のシュートで引き分けた。

	【ジャ】	得	【大崎】	得
GK	矢部	0	梅野	0
GK	木村	0	藤田	0
FP	松岡	2	西	7
FP	寺沢	4	大日	0
FP	若林	0	宮嶋	0
FP	石田	3	石井	1
FP	鷲野	5	渡部	1
FP	十丸	0	徳渕	1
FP	宮本	2	時實	2
FP	野村	2	李相玉	1
FP	近藤	1	李京姫	6
FP	服部	0	沖山	0
PT		(5)		(3)
計		19		19

（審・丸岡、島崎）

ブラザー工業（2勝1分2敗）19（13－9、6－10）19 大和銀行（1勝1分3敗）

○…立ち上がり、ブラザーの中村のロングシュート、その後多彩な攻撃でブラザーは得点を重ねる大和も鈴木、馬渡のサイドシュート、ポストシュートで得点し、13対9でブラザーのリードで前半終了。

後半、大和がリズムある攻撃で着実に得点を重ねて追いつき逆に3点リード。そのまま終了するかに思えたが、ブラザーも粘り、残り1分で追いついて結局同点のまま終了。

	【ブ工】	得	【大和】	得
GK	畑添	0	高浜	0
GK	大薮	0	松本	0
FP	杏原	4	鈴木	2
FP	竹内	1	若杉	2
FP	赤井	0	前田	0
FP	中村	3	若水	3
FP	増永	6	馬渡	5
FP	太田	1	大谷	0
FP	松岡	0	高橋	2
FP	塩屋	1	西野	0
FP	森山	0	秋成	3
FP	松下	3	川添	2
PT		(4)		(0)
計		19		19

（審・北山、大原）

（9月18日・京都府立体育館）

立石電機（4勝）22（10－9、12－5）14 日本ビクター（1分4敗）

	【立石】	得	【日ビ】	得
GK	井村	0	渡辺	0
GK	荒木	0		
FP	是枝	0	志村	1
FP	桑原	0	中根	2
FP	亀園	1	門脇	0
FP	イレシュ	3	武藤	3
FP	薮田	5	長田	3
FP	喜久山	0	遠藤	0
FP	岩村	4	枝川	0
FP	近藤	3	村上	1
FP	江口	2	池田	0
FP	野嶋	4	下條	4
PT		(5)		(3)
計		22		14

（審・新村、井上）

○…前半立ち上がり、立石はポストを中心としたカットインプレーやサイド攻撃、ビクターはロングシュートを中心にしたスピーディな攻撃で、1点を争う好ゲームを展開した。

後半に入り、立ち上がり立石はイレシュの好ディフェンスから速

い攻撃をしかけ、3点を連取して勢いに乗った。更にイレシュのポストプレーなどで着々と得点をあげる一方、10分余りをノーゴールに押さえるなどディフェンスも良く、得点差を広げ、ビクターの最後の追い込みも楽に押さえ逃げ切った。

▽第3週第1日

（9月23日・福島県体育館）

立石電機（5勝） 20（12−8 / 8−9）17 大崎電機（4勝1敗1分）

得	【大崎】		【立石】	得
0	梅野	GK	井村	0
0	藤田	GK	荒木	0
6	西	FP	是枝	1
0	大日	FP	桑原	1
1	宮嶋	FP	亀園	1
3	石井	FP	イレシュ	7
0	渡部	FP	薮田	2
1	徳渕	FP	喜久山	0
0	時實	FP	岩村	1
5	李相玉	FP	近藤	3
1	李京姫	FP	江口	0
0	松尾	FP	野嶋	4
17	(4)	PT	(4)	20

（審・岡本・清水）

○…大崎・李京姫の先取点で大崎リードするかに見えたが、イレシュのポストプレー、近藤のジャンプシュート等で立石がリード。
　後半、大崎は相玉、京姫のコンビで立石を攻め立てたが、立石イレシュ、岩村のディフェンスの壁が厚く、終了間際立石に再三のストーリングがあって大崎チャンスだったが追いつけなかった。
　イレシュの7得点とポストプレーヤーに対する荒っぽいプレーが目についた。

（9月23日・四日市体育館）

ジャスコ（4勝1分） 19（9−4 / 10−9）13 大和銀行（1勝4敗1分）

得	【大和】		【ジャ】	得
0	高浜	GK	矢部	0
0	松本	GK	木村	0
3	鈴木	FP	松岡	5
2	若杉	FP	寺沢	7
0	前田	FP	若林	0
2	若水	FP	石田	2
3	馬渡	FP	鷲野	0
0	天谷	FP	十丸	0
0	高橋	FP	宮本	2
0	西野	FP	野村	1
1	秋成	FP	近藤	2
2	川添	FP	徳重	0
13	(1)	PT	(6)	19

（審・浅田・岩本）

○…立ち上がり両チーム硬い動きで、5分にようやく大和・若杉のサイドシュートで先行。一方ジャスコは9分、寺沢のPTで1−2とした後12分宮本で2−2とし効率の良い攻撃でジリジリと加点した。
　大和は、速い動きでディフェンスをゆさぶって、シュートを試みるも、ジャスコのGK矢部の再三にわたる好守に阻まれ、得点を重ねることができず、4−9で前半を終了した。
　後半、両チーム速い動きの展開となり、速攻の応酬でゲームを盛り上げた。
　GK矢部の好守にあい苦戦を余儀なくされた大和ではあったが、最後までゲームをあきらめず善戦した。GKの差がそのまま得点差となった。

▽第3週第2日

（9月24日・岩井市総合体育館）

日本ビクター（1勝1分4敗） 24（11−6 / 13−9）15 北国銀行（6敗）

得	【北国】		【日ビ】	得
0	辻	GK	渡辺	0
0	新宅	GK		
0	中川	FP	志村	6
6	八木	FP	中根	4
2	和田	FP	門脇	0
3	中田	FP	武藤	7
3	竹	FP	長田	3
0	山崎	FP	遠藤	0
1	藤田	FP	柴谷	0
0	小玉	FP	村上	3
0	貞吉	FP	池田	0
0	大西	FP	下條	1
15	(2)	PT	(4)	24

（審・栗城・内田）

○…ビクターが率先良く3点を連取し、前半10分で6−1と引き離す。北国は八木がふんばり、また、竹のロングシュートで20分8−5と詰め寄るが、北国のミスをついたビクターに得点され前半11−6で終了。
　後半、ビクターは武藤のロングで先制、その後も順調に重ねるが北国も最後まで粘る展開。しかし地力に勝るビクターが北国を突き放し勝利を飾る。

▽第3週第3日

（9月25日・栃木市総合体育館）

立石電機（6勝） 17（9−6 / 8−9）15 日立栃木（2勝3敗1分）

○…立ち上がりイレシュのポストシュート、日立・遠藤のフリースローからのシュートで1−1で始まった前半だが、その後双方共にGKの固い守りにより得点できず、15分過ぎまで3−2と立石の1点リードで展開。中盤に入り、立石はイレシュのポストを中心に多彩な攻撃を展開加点して行く。一方の日立も前田、山本らが元気なプレーを見せ着実に得点、僅かにシュート力に勝る立石が3点のリードで前半を終了。
　後半21分、日立は前田らの加点により13−14の1点とせまったが惜しくも同点に追いつかず、立石はPTで2点を加え再び17−14の3点差となる。終了40秒前日立・手打がサイドシュートを決め2点差とせまったがそのまま試合終了の笛が鳴る。

得	【日立】		【立石】	得
0	椿谷	GK	井村	0
0	葛生	GK	荒木	0
1	大高	FP	是枝	0
0	栗原	FP	桑原	0
0	土屋	FP	亀園	1
2	手打	FP	イレシュ	1
8	前田	FP	薮田	2
0	清水	FP	喜久山	0
1	吉田	FP	岩村	4
3	山本	FP	近藤	2
0	藤田	FP	江口	5
0	山岸	FP	野嶋	2
15	(2)	PT	(8)	15

（審・島田・後藤）

ジャスコ（5勝1敗） 17（11−3 / 6−6）9 ブラザー工業（2勝3敗1分）

○…前半3分、ジャスコ寺沢のPTで1点先取。その後双方共にGKの好守に阻まれ、10分過ぎには3−3の同点。ジャスコは寺沢を中心に近藤、石田、松岡らが着実に得点、また、GK矢部がブラザーの加点を許さず、25分過ぎには10−3と大きくリード。ブラザーは、前半にPTを3本もはずすなど全体的にミスが多く、攻撃に精彩を欠いていた。後半は両者共に互角、ただ終盤に双方によるシュートミスが多く目立った。

得	【ジャ】		【ブ工】	得
0	矢部	GK	畑添	0
0	木村	GK	大薮	0
3	松岡	FP	杏原	0
5	寺沢	FP	竹内	1
0	若林	FP	赤井	0
1	石田	FP	中村	0
3	鷲野	FP	増永	3
0	十丸	FP	太田	2
2	宮本	FP	塩屋	0
0	野村	FP	森山	1
3	近藤	FP	松下	2
0	服部	FP	原田	0
17	(3)	PT	(0)	9

（審・山下・浜野）

＜最終週第1日＞

（10月1日・石川県体育館）

大和銀行（2勝4敗1分） 28（15−13 / 13−8）21 北国銀行（7敗）

得	【大和】		【北国】	得
0	高浜	GK	辻	0
0	松本	GK	新宅	0
1	鈴木	FP	中川	1
6	若杉	FP	八木	9
0	前田	FP	和田	1
3	若水	FP	竹	5
5	馬渡	FP	山崎	0
0	天谷	FP	藤田	3
0	内窪	FP	小玉	0
3	高橋	FP	貞吉	0
6	秋成	FP	大西	2
4	川添	FP		
28	(3)	PT	(3)	21

（審・徳前・山口）

○…前半、大和の馬渡の速攻と北国のセットの得点がよく決まり追いつ追われつの好ゲームになった。後半、大和は速攻で得点を重ね、ディフェンスでは北国のポイ

ントゲッター八木をマンツーマンで守り、北国のリズムを崩し、勝利に結びつけた。

＜最終週第2日＞

（10月2日・名古屋市体育館）

日本ビクター（2勝1分4敗） 22（10―11／12―5）16 ブラザー工業（2勝1分4敗）

得	【日ビ】		【ブ工】	得
0	渡辺	GK	添畑	0
		GK	大藪	0
6	志村	FP	杏原	3
1	市根	FP	竹内	4
0	門脇	FP	赤井	0
3	武藤	FP	中村	2
6	長田	FP	増永	6
0	遠藤	FP	太田	0
0	枝川	FP	松岡	0
2	村上	FP	塩屋	1
0	池田	FP	森山	0
4	下條	FP	松下	0
22	(3)	PT	(7)	16

（審・藤本・福井）

○…前半は両チーム共譲らずブラザー1点リードで前半終了、後半ビクターは武藤のロングを皮切りに順調に得点を重ね、追いすがるブラザーを突き放した。ビクターGKの好守が勝利の大きな要因である。

（10月2日・福井県体育館）

日立栃木（3勝1分3敗） 23（13―12／10―9）21 大崎電気（4勝1分2敗）

得	【日立】		【大崎】	得
0	勝谷	GK	梅野	0
0	葛生	GK	藤田	0
1	大高	FP	西	2
1	栗原	FP	大日	0
0	西山	FP	宮嶋	0
3	土屋	FP	石井	2
3	手打	FP	渡部	1
8	前田	FP	徳渕	4
2	吉田	FP	時實	1
0	山本	FP	李相玉	6
0	藤田	FP	李京姫	5
5	山岸	FP	梶尾	0
23	(3)	PT	(4)	23

（審・越田・竹田）

○…前半、大崎李相玉・李京姫の活躍で10分7―3とリード、その後も一進一退。前半の終り頃、相玉、京姫のシュートが日立GKによまれ、ことごとく阻止されて13―12と日立リードで前半終了。後半も大崎の単調な攻めで日立GKの好守にあい、20分経過時20―15と日立5点のリード。その後大崎追い上げるも今一歩までにあわず23―21でゲームセット。

（10月2日・熊本県総合体育館）

立石電機（7勝） 17（8―6／9―8）14 ジャスコ（5勝1分1敗）

得	【立石】		【ジャ】	得
0	井村	GK	矢部	0
0	荒木	GK	木村	0
0	是枝	FP	松岡	2
0	桑原	FP	寺沢	3
2	亀岡	FP	若林	2
5	イレッシュ	FP	石田	2
1	薮田	FP	鷲野	3
1	喜久山	FP	十丸	0
2	岩村	FP	宮本	0
3	近藤	FP	野村	0
1	江口	FP	近藤	2
2	野嶋	FP	服部	0
17	(2)	PT	(2)	14

（審・松尾・福田）

○…立ち上がりジャスコが石田のロングで先行し、立石もすぐ薮田のカットインで同点。そのあと一進一退の好ゲームとなった。20分イレッシュのポストで逆転して後半まで立石ペースになった。（イレッシュは5得点）ジャスコは鷲野のカットインからの速攻で連続得点して追うが及ばず前半終了。後半も近藤、岩村のポストシュートで着実に加点、ジャスコの近藤、寺沢、若林らのカットインからの速攻も及ばず、立石が逃げて4連勝を地元で獲得、GK井村の好守が光った。

〔1部女子〕（1回総当り制）

	立石	大崎	ジャスコ	ブラザー	ビクター	日立	大和	北国	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
立石電機	＼	○	○	○	○	○	○	○	7	0	0	14	144	110	33	1
大崎電気	●	＼	△	○	○	●	○	○	4	1	2	9	156	127	29	3
ジャスコ	●	△	＼	○	○	○	○	○	5	1	1	11	127	100	28	2
ブラザー工業	●	●	●	＼	●	○	△	○	2	1	4	5	115	126	-11	7
日本ビクター	●	●	●	○	＼	△	●	○	2	1	4	5	127	133	-6	6
日立栃木	●	○	●	●	△	＼	○	○	3	1	3	7	124	126	-2	4
大和銀行	●	●	●	△	○	●	＼	○	2	1	4	5	133	148	-15	5
北国銀行	●	●	●	●	●	●	●	＼	0	0	7	0	116	172	-56	8

〔個人表彰〕

■ベストセブン
GK 井村文光子（立石）
FP 寺沢路子（ジャスコ）
八木千津子（北国）
李　相玉（大崎）
K・イレシュ（立石）
前田重子（日立）
武藤夕起子（ビクター）

■最多得点賞　33点
前田重子（日立）
八木千津子（北国）

■最高得点率賞
若水真由美（大和）

■最優秀監督賞
井　薫（立石）

〔2部男子〕（1回総当たり制）

	イーグルス	三景	中村	トヨタ車体	日鉄	大ガス	トヨタ自	本田熊本	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
大阪イーグルス	＼	●	●	●	○	○	○	●	3	0	4	6	[illegible]	[illegible]	[illegible]	6
三景	○	＼	●	●	○	○	●	○	4	0	3	8	[illegible]	155	13	3
中村[illegible]	○	○	＼	△	○	○	○	○	6	1	0	13	[illegible]	[illegible]	[illegible]	1
トヨタ車体	○	○	△	＼	○	○	●	●	4	1	2	9	[illegible]	[illegible]	[illegible]	2
日鉄[illegible]	●	●	●	●	＼	○	●	○	2	0	5	4	139	[illegible]	-34	7
大阪ガス	●	●	●	●	●	＼	●	●	0	0	7	0	140	[illegible]	[illegible]	8
トヨタ自動車	●	○	●	○	○	○	＼	●	4	0	3	8	[illegible]	154	[illegible]	4
本田技研熊本	○	●	●	○	●	○	○	＼	[illegible]	[illegible]	3	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	5

昭和58年度関東学生秋季リーグ戦

中大(男)日体大(女)が全勝で制す

＜男子１部＞

▽9月22日

筑波大 17(7－7, 10－10)17 早大
日大 32(18－8, 14－10)18 順大
国士大 21(10－7, 11－13)20 法大
中大 34(18－15, 16－12)27 慶大

▽9月24日

中大 21(10－11, 11－7)18 法大
国士大 22(8－12, 14－8)20 慶大
筑波大 34(13－12, 21－8)20 順大
日大 32(15－9, 17－7)16 早大

▽9月30日

日大 29(14－10, 15－8)18 慶大
筑波大 22(13－12, 9－8)20 法大
国士大 23(10－7, 13－11)18 早大
中大 29(14－5, 15－11)16 順大

▽10月9日

慶大 15(8－3, 7－7)10 筑波大
法大 20(11－11, 9－8)19 日大
国士大 25(11－6, 14－7)13 順大
中大 27(14－8, 13－9)17 早大

▽10月20日

法大 27(13－7, 14－9)16 順大
慶大 24(12－9, 12－8)17 早大
日大 20(13－8, 7－10)18 国士大
中大 24(13－9, 11－8)27 筑波大

▽10月21日

法大 33(19－10, 14－7)17 早大
慶大 23(16－6, 7－4)10 順大
国士大 16(9－4, 7－11)15 筑波大
中大 21(8－9, 13－11)20 日大

▽10月25日

早大 24(11－9, 13－10)19 順大
法大 15(7－7, 8－8)15 慶大
中大 25(13－9, 12－9)18 国士大
日大 21(11－9, 10－9)18 筑波大

(順位) ①中大②日大③国士大④法大⑤慶大⑥筑波大⑦早大⑧順大

▽優秀選手

GK 宇田川敏郎(中大)
FP 実方智(中大)
大谷芳(中大)
清家伸二(中大)
河村徹(日大)
池田勝(国士大)
平林義規(慶大)

▽得点王

実方智(中大) 51点

＜男子２部＞

東海大 35－17 専大
東学大 32－27 明星大
東海大 40－17 芝工大
日体大 35－8 東大
日体大 49－10 芝工大
東海大 29－17 東大
日体大 36－21 専大
東学大 24－21 専大
日体大 29－12 明星大
東学大 32－15 芝工大
茨城大 26－20 専大
専大 24－21 東大
東大 27－19 芝工大
明星大 21－16 茨城大
東学大 29－25 東大
東海大 27－19 明星大
茨城大 23－20 芝工大
日体大 29－22 東学大
茨城大 26－15 東大
東海大 24－21 東学大
日体大 35－12 茨城大
専大 21－17 明星大
明星大 36－16 芝工大
東海大 22－15 茨城大
専大 30－15 芝工大
明星大 35－23 東大
日体大 36－24 東海大
東学大 24－24 茨城大

(順位) ①日体大②東海大③東京学芸大④茨城大⑤明星大⑥専修大⑦東京大⑧芝浦工大

▽得点王

山田啓太(東学大) 64点

＜男子３部＞

上智大 19－11 千工大
立大 19－12 明大
横国大 21－17 東農大
東農大 22－17 東理大
上智大 20－16 立大
明大 25－16 神大
横国大 12－0 立大
東理大 30－26 神大
明大 26－18 東農大
横国大 24－22 神大
横国大 23－21 千工大
立大 26－20 東理大
上智大 28－24 神大
立大 25－24 神大
横国大 31－18 東理大
立大 25－20 千工大
神大 26－25 東農大
明大 18－17 上智大
神大 23－19 千工大
明大 21－19 横国大
東農大 20－19 立大
東理大 22－20 上智大
明大 32－13 東理大
東理大 24－21 千工大
横国大 21－20 上智大
東理大 18－16 千工大

(順位) ①明大②横浜国大③上智大④立大⑤東京農大⑥東京理科大⑦神奈川大⑧千葉工大

▽得点王

水上雄一(横国大) 59点

＜男子４部＞

文教大 23－20 創価大
大東大 29－24 横商大
防大 26－26 武工大
青学大 25－21 一橋大
創価大 21－19 一橋大
創価大 19－19 武工大
大東大 27－25 青学大
武工大 21－19 文教大
一橋大 23－22 大東大
大東大 23－20 防大
青学大 32－22 武工大
創価大 27－19 大東大
防大 27－16 青学大

創価大 26－19 青学大
大東大 17－14 武工大
文教大 22－18 一橋大
武工大 27－19 横商大
文教大 16－14 防大
武工大 28－18 一橋大
文教大 24－13 大東大
横商大 12－0 創価大
文教大 29－18 青学大
一橋大 39－19 横商大
防大 29－13 一橋大
防大 21－14 創価大
文教大 28－12 横商大
青学大 36－26 横商大
防大 30－21 横商大

〔順位〕①文教大②防衛大③大東文化大④武蔵工大⑤創価大⑥青山学院大⑦一橋大⑧横浜商科大

▽得点王 小沢浩一（横商大） 52点

〈男子5部〉

東経大 21－16 関学大
武蔵大 41－19 独協大
都留大 33－19 日工大
武蔵大 24－19 東経大
埼玉大 26－20 都留大
関学大 25－22 和光大
埼玉大 26－22 和光大
都留大 28－20 武蔵大
埼玉大 33－20 日工大
埼玉大 26－17 独協大
東経大 26－21 独協大
埼玉大 31－20 武蔵大
日工大 35－19 和光大
東経大 20－20 日工大
関学大 21－21 都留大
和光大 25－18 独協大
埼玉大 22－16 関学大
都留大 38－16 独協大
東経大 20－14 和光大
東経大 23－19 都留大
埼玉大 15－14 東経大
武蔵大 23－22 日工大
関学大 31－20 日工大
都留大 34－18 和光大
武蔵大 29－18 関学大
日工大 26－20 独協大

〔順位〕①埼玉大②武蔵大③都留文科大④東京経済大⑤関東学院大⑥日本工大⑦和光大⑧独協大

▽得点王 野口学（日工大） 72点

〈男子6部〉

横市大 22－20 都立大
明学大 21－18 東工大
成蹊大 19－9 東洋大
千葉大 24－23 都立大
成蹊大 22－14 東工大
横市大 32－17 東洋大
亜大 20－17 明学大
千葉大 30－22 明学大
東工大 25－21 都立大
亜大 14－13 千葉大
東工大 20－6 東洋大
成蹊大 20－15 横市大
亜大 31－20 都立大
東工大 15－14 千葉大
成蹊大 20－16 都立大
明学大 18－18 横市大
亜大 27－13 東洋大
亜大 17－10 成蹊大
千葉大 23－9 東洋大
千葉大 21－15 横市大
成蹊大 19－17 明学大
東工大 21－16 横市大
東工大 15－13 亜大
都立大 37－18 東洋大
千葉大 20－14 成蹊大
亜大 27－14 横市大
明学大 31－15 東洋大
都立大 19－15 明学大

〔順位〕①亜細亜大②千葉大③成蹊大④東京工大⑤明治学院大⑥横浜市大⑦都立大⑧東洋大

▽得点王 山崎浩明（東工大） 61点

〈男子7部〉

農工大 30－21 東外大
拓大 19－15 産能大
工芸大 27－27 農工大
麗沢大 21－20 東外大
玉川大 22－19 東外大
産能大 25－21 東外大
工芸大 16－13 麗沢大
農工大 27－23 山梨大
山梨大 28－18 産能大
農工大 28－24 産能大
工芸大 36－27 拓大
麗沢大 13－13 山梨大
麗沢大 26－17 産能大
玉川大 29－23 山梨大
玉川大 35－18 麗沢大
農工大 25－22 玉川大
東外大 27－22 工芸大
農工大 19－14 拓大
玉川大 36－24 工芸大
麗沢大 29－24 拓大
工芸大 35－22 産能大
拓大 26－17 東外大
玉川大 33－20 拓大
麗沢大 15－10 農工大
玉川大 29－22 産能大
東学大 12－0 山梨大
工芸大 30－21 山梨大
拓大 12－0 山梨大

〔順位〕①玉川大②東京農工大③東京工芸大④麗沢大⑤拓殖大⑥東京外語大⑦山梨大⑧産業能率大

▽得点王 武居英俊（東京工芸大） 85点

〈女子1部〉

▽9月23日

筑波大 24（11－10, 13－4）14 茨城大

▽9月24日

日体大 33（16－4, 17－10）14 東学大

▽9月25日

日体大 38（19－7, 19－4）11 東学大
筑波大 22（11－3, 11－7）10 茨城大

▽9月28日

筑波大 31（17－8, 14－5）13 東学大

▽10月1日

東女体大 15（5－8, 10－1）9 日女体大
筑波大 30（17－7, 13－4）11 東学大

▽10月2日
東女体大 21（10－7 11－6）13 日女体大
▽10月9日
日体大 26（15－5 11－7）12 日女体大
東女体大 23（11－3 12－4）7 東学大
▽10月12日
日体大 27（10－4 17－8）12 日女体大
▽10月15日
東女体大 27（11－6 16－8）14 東学大
▽10月16日
筑波大 22（13－9 9－9）18 日女体大
日体大 13（3－6 10－3）9 東女体大
▽10月20日
茨城大 11（6－6 5－4）10 東学大
日体大 23（14－6 9－12）18 東女体大
▽10月21日
筑波大 22（11－4 11－4）8 日女体大
日体大 26（15－4 11－8）12 茨城大
▽10月22日
日体大 26（11－6 15－6）12 茨城大
▽10月23日
東女体大 11（2－6 9－2）8 筑波大
東学大 17（9－5 8－6）11 茨城大

▽10月25日
東女体大 12（8－4 4－7）11 筑波大
日女体大 16（9－3 7－12）15 茨城大
▽10月26日
日女体大 23（12－6 11－9）15 茨城大
▽10月29日
東女体大 19（7－6 12－5）11 茨城大
日体大 23（12－13 11－8）21 筑波大
東学大 21（10－10 11－5）15 日女体大
▽10月30日
日女体大 20（9－5 11－10）15 東学大
東女体大 15（6－5 9－6）11 茨城大
日体大 25（12－6 13－9）15 筑波大
〔順位〕①日体大②東女体大③筑波大④日女体大⑤東学大⑥茨城大
▽優秀選手
GK 広瀬悦子（日体大）
FP 池内季子（日体大）
呉田幸子（日体大）
山本美幸（日体大）
大野美加（日体大）
内山美代子（東女体大）
河原敦子（筑波大）
▽得点王
小池宏子（東女体大）70点

＜女子2部＞
東海大 32－4 駒大
文教大 13－7 横国大
千明短大 44－2 学短大
都留大 14－4 創価大
千明短大 23－7 駒大
東海大 34－4 千葉大
横国大 36－7 学短大
創価大 15－12 文教大
千明短大 16－8 創価大
東海大 37－10 横国大
文教大 15－4 駒大
千葉大 30－3 学短大
千明短大 25－13 横国大
東海大 30－5 創価大
創価大 42－0 学短大
文教大 23－8 千葉大
東海大 38－7 文教大
都留大 23－4 駒大
創価大 13－11 横国大
千明短大 28－12 文教大
千明短大 30－7 千葉大
東海大 25－6 都留大
都留大 20－5 文教大
駒大 23－4 学短大
千葉大 14－5 駒大
都留大 49－1 学短大
都留大 20－15 横国大
創価大 11－7 千葉大
横国大 17－7 千葉大
文教大 35－4 学短大
東海大 20－15 千明短大
創価大 11－6 駒大
千明短大 17－9 都留大
都留大 19－4 千葉大
横国大 25－13 駒大
〔順位〕①東海大②千葉明徳短大③都留文科大④創価大⑤文教大⑥横浜国大⑦千葉大⑧駒沢大⑨学習院短大
▽得点王
手島理恵子（東海大）63点

＜入れ替え戦＞
横国大 22（12－9 10－11）20 東大
明大 26（11－6 15－10）16 芝工大
早大 27（10－9 17－10）19 東海大
日体大 21（12－5 9－10）15 順大
都立大 26（14－8 12－6）14 農工大
玉川大 28（13－9 15－8）17 東洋大
千葉大 34（15－9 19－7）16 和光大
亜大 27（16－4 11－6）10 独協大
埼玉大 36（16－16 20－11）27 横商大
一橋大 30（13－5 17－9）14 武蔵大
神大 20（8－8 12－9）17 防大
千工大 21（9－4 12－12）16 文教大
＜女子＞
茨城大 18（12－7 6－7）14 東海大
※以上の通り、日体大、明大、横浜国大、埼玉大、千葉大、玉川大、亜細亜大が昇格、早大、都立大、一橋大、神奈川大、千葉工大、茨城大（女子）が残留しました。


MIKASA
MG
HAND BALL
NO-3
MADE IN JAPAN
OFFICIAL
SIZE-WEIGHT
NYLON
WOUND




OFFICIAL BALL APPROVED BY
J. H. A.


brother

人から、まず人からの科学。バイオメカニクス。

7人は、鳥である。
7人は壁である。



はるか、上空での空中戦を展開する競技である。
鉄壁の、という形容がふさわしい競技である。
防御から攻撃へ、ひとつの動きで移っていく。
コートという名の戦場では、身につけるウェアも、
作戦のひとつなのだ。バイオメカニクスから生まれた
ハンドボールウェア〈スカイハンド〉。
武器のような7人のために。



株式会社アシックス　商品その他お問い合わせは、株式会社アシックス消費者相談課まで。
〒564　大阪府吹田市豊津町2番3号　☎(06)385-1111(大代表)

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二二四号
昭和四十年六月[illegible]第三種郵便物認可
昭和五八年十月二十五日 印刷
昭和五八年十一月一日 発行



東京[illegible]谷区神南一ー一ー一
電話[illegible]表（467）七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）